



探索、発見および分析

Qlik Sense®

November 2025

Copyright © 1993-2025 QlikTech International AB. All rights reserved.

1 本書について	6
2 発見と分析	7
2.1 ルーチン分析	7
2.2 予備分析	7
3 ビジュアライゼーションによるデータの探索	8
3.1 選択プレビュー	8
選択なし	8
選択後	9
2番目の選択後	9
3.2 ビジュアライゼーションでの選択の種類	10
ビジュアライゼーションタイプ別に使用できる選択	10
制限事項	11
クリックによる選択	11
描画による選択	12
ラベル選択	14
囲み選択	14
凡例による選択	15
範囲選択	16
3.3 連想選択モデル	16
選択ステート	17
3.4 ビジュアライゼーションのデータの表示	22
データの表示が可能なビジュアライゼーション	23
ビジュアライゼーションとデータ表示間の切り替え	24
3.5 視覚的な探索	24
視覚的な探索メニューを使用したプロパティの変更	25
視覚的な探索メニューを使用したデータの変更	26
モバイルデバイスでの視覚的な探索メニューの使用	26
制限事項	27
3.6 ビジュアライゼーションのスクロール	27
スクロールと囲み選択の使用	27
囲み選択をオンにする必要があるビジュアライゼーション	28
3.7 データ取得のキャンセル	29
4 ブックマークの選択	30
4.1 ブックマークの作成	30
ブックマークの作成	31
動的ブックマークを使用した作業	32
ステートおよび set 数式	33
ブックマークのオプション	33
ブックマークの検索	33
ブックマークのタイトルと説明の変更	34
プライベートブックマークの選択の更新	34
ブックマークを閲覧できるユーザーを変更する	34
制限事項	35
4.2 アプリのランディングページを作成する既定のブックマークの設定	35
既定のブックマークの設定	36
4.3 ブックマークの削除	36

シート表示でのブックマークの削除	36
アプリの概要からのブックマークの削除	37
5 選択による探索	38
5.1 選択オプション	40
すべて選択	40
絞込値を選択	40
代替項目を選択	40
除外値を選択	40
5.2 選択バーのラベル	40
5.3 カスタム テーマと選択状態の色	40
5.4 選択またはビジュアライゼーション内での検索	40
検索タイプ	42
テキスト検索	43
数値の検索	49
あいまい検索	51
数式の検索	51
複合検索	53
5.5 選択の編集	56
5.6 選択のロックおよびロック解除	56
選択のロック	56
選択のロック解除	57
5.7 選択履歴の移動	57
5.8 選択ツールの使用	58
選択の実行とクリア	59
[アプリ軸] セクション内での検索	59
選択ツールでのスクロール	59
洞察の生成	60
計算軸	60
5.9 Associative Insights によるデータの発見	60
制限事項	60
Associative Insights の選択ビュー	60
洞察カードの詳細ビュー	63
洞察カードの KPI ビュー	65
洞察の生成	66
Associative Insights の例: 残されたデータなし	66
アプリで Associative Insights を無効にする	70
Associative Insights のトラブルシューティング	70
6 スマート検索の使用	71
6.1 検索時の動作	71
A: 検索フィールド	72
B: 選択の適用	72
C: 検索結果用語の色分け	72
6.2 検索結果を使って選択を変更する	73
データの検索結果を調整する	73
6.3 スマート検索で使用されるキーボードショートカット	75
7 トラブルシューティング - 発見	76
7.1 検索しても結果が生成されない	76

7.2 Insight Advisor を使用して検索しても結果が生成されない	76
7.3 未完了のビジュアライゼーション	76

1 本書について

異なるツールを使用して、データディスカバリーをする方法についてご説明します。

本書は **Qlik Sense** のオンラインヘルプをもとに作成されています。オフラインでの情報入手や印刷の便宜を図った簡易版のため、すべての情報が掲載されているわけではありません。

help.qlik.com/sense では、オンラインヘルプ、付加的なガイド、その他多くのリソースをご提供しております。

2 発見と分析

アプリを作成してデータをロードすると、データの発見と分析が行えるようになります。

2.1 ルーチン分析

ルーチン分析では、定期的に主要なメトリクスを確認するのが一般的です。以下は、常に確認しておきたいKPI(重要業績評価指標)の例です。

- 毎朝のノルマに対する総売上高
- 前年同期比総売上高に対する総売上高
- 週末における受注未発送件数
- 各月同日における地域ごとの売上高

2.2 予備分析

データの分析中、アクセスしているアプリに、欠落している部分が見つかる場合があります。Qlik Senseでは条件を複数選択できるため、データのフィルターを効果的に行うことができますが、新たな洞察を得るために既存のビジュアライゼーションや軸、メジャーを調整するような状況も考えられます。

3 ビジュアライゼーションによるデータの探索

それぞれのビジュアライゼーション内でクリックしたり、線を描画することで選択を行います。

選択を行うと、関連するすべてのビジュアライゼーションが即座に更新され、選択が反映されます。✔️をクリックするか、ビジュアライゼーションの外のシート上をクリックして選択を確定します。別のビジュアライゼーションをクリックしても選択は確定されますが、この場合は新しい選択が行われたことになります。また、Enterを押して確定することもできます。

❌をクリックすると、選択をキャンセルできます。また、Escを押して元に戻すことも可能です。

デフォルトで、ビジュアライゼーションの新しい選択は前の選択に追加されます。アイテムの選択を解除するには、そのアイテムをクリックします。コンピュータでは選択中にCtrlを長押しすると、ビジュアライゼーションの以前の選択が自動的に消去され、新しい選択だけが維持されます。

3.1 選択プレビュー

下の画像は、選択を行った直後にビジュアライゼーションが更新される様子を示しています。

選択なし

選択が行われていないシート表示。



選択後

この画像では、**Region** フィルターパネルで選択が行われており、関連するすべてのビジュアライゼーションに反映されています。

Region フィルターパネルで行われている選択。



2 番目の選択後

この画像では、棒グラフの **Total Sales** で 2 番目の選択が行われました。最初の選択が自動的に確定され、新しい選択のプレビューが表示されています。

Total Sales の棒グラフで行われた2番目の選択。



i フィルターパネルで選択を行う際、[選択のキャンセル] (⊗) と[選択をクリア] (⊗) の間には差があります。⊗ は最新の選択のみをクリアしますが、⊗ は選択すべてをクリアします。

3.2 ビジュアライゼーションでの選択の種類

データを分析するには、さまざまな選択方法があります。次の選択を使用できます。

- [クリックによる選択 \(page 11\)](#)
- [描画による選択 \(page 12\)](#)
- [範囲選択 \(page 16\)](#)
- [囲み選択 \(page 14\)](#)
- [凡例による選択 \(page 15\)](#)
- [ラベル選択 \(page 14\)](#)

ビジュアライゼーションタイプ別に使用できる選択

チャートとテーブルでは選択方法が異なります。特定のビジュアライゼーションでは、一部の選択方法が非常に役立ちます。下表では、それぞれのビジュアライゼーションでサポートされている選択の種類を紹介します。

3 ビジュアライゼーションによるデータの探索

ビジュアライゼーションでサポートされている選択

ビジュアライゼーション	クリックによる選択	描画による選択	範囲選択	囲み選択	凡例による選択	ラベル選択
棒グラフ	あり	あり	あり	あり	あり	あり
ボックスプロット	あり	あり	あり	あり	なし	あり
コンボチャート	あり	あり	あり	あり	あり	あり
分布プロット	あり	あり	あり	あり	あり	あり
フィルターパネル	あり	あり	なし	なし	なし	なし
ゲージ	なし	なし	なし	なし	なし	なし
ヒストグラム	あり	あり	あり	あり	なし	なし
[KPI]	なし	なし	なし	なし	なし	なし
折れ線グラフ	あり	あり	あり	あり	あり	あり
マップ	あり	あり	なし	あり	あり	なし
円グラフ	あり	あり	なし	あり	あり	あり
ピボットテーブル	あり	あり	なし	なし	なし	なし
散布図	あり	あり	あり	あり	なし	なし
ストレートテーブル	あり	あり	なし	なし	なし	なし
[Table] (テーブル)	あり	あり	なし	なし	なし	なし
テキストと画像	なし	なし	なし	なし	なし	なし
[ツリーマップ]	あり	あり	なし	あり	なし	なし
ウォーターフォールグラフ	なし	なし	なし	なし	なし	なし

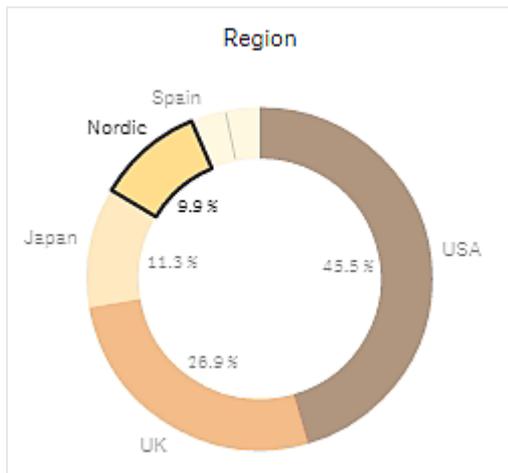
制限事項

- [ゲージ]、[KPI]、[ウォーターフォールグラフ]、および [テキストと画像] のビジュアライゼーションで選択を行うことはできません。
- 凡例による選択は、数式による色分け時にビジュアライゼーションでは使用できません。
- 範囲の選択は、積み上げ棒グラフまたはコンボチャート、およびボックスプロットの軸の目盛線でのみ使用できます。
- 名前でメジャーを選択することはできません。

クリックによる選択

クリックにより、一度に1つの値/データポイントを選択できます。値/データポイントの選択を解除する場合は、その値/データポイントをもう一度クリックします。

Nordic セクターが選択されている円グラフ

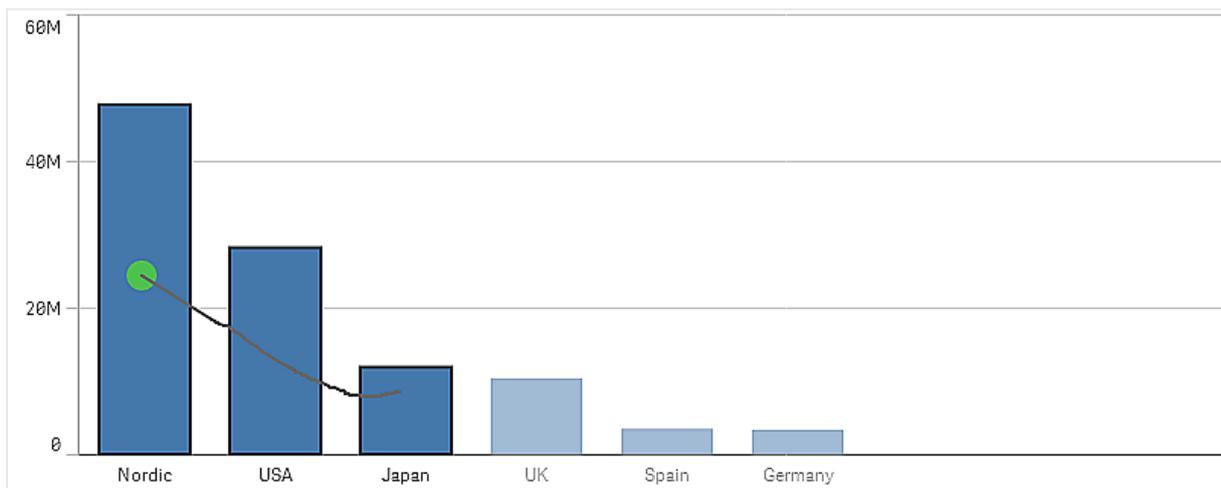


描画による選択

描画選択または囲み選択を行う場合、まずビジュアライゼーション内をクリックし、ビジュアライゼーションの上部にあるなげなわアイコン  をクリックして囲み選択機能を有効にする必要があります。またコンピューター操作では、Shift キーを押しながら選択することで、同様の結果が得られます。

フリーハンドで線を引くことで、一度に複数の値/データポイントを選択できます。ただし、この方法で値/データポイントの選択を解除することはできません。

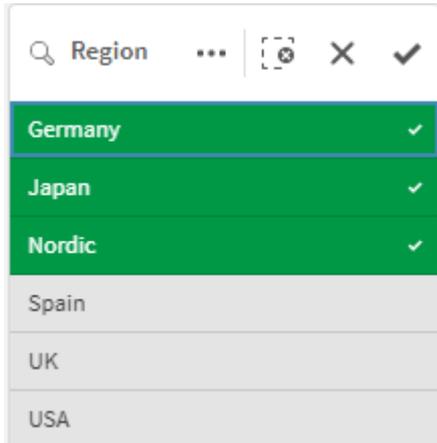
描画による選択を使用して Nordic、USA、および Japan が選択されている棒グラフ



テーブルやフィルターパネルで複数の値にまたがる線を引くと、それらの値が選択されます。

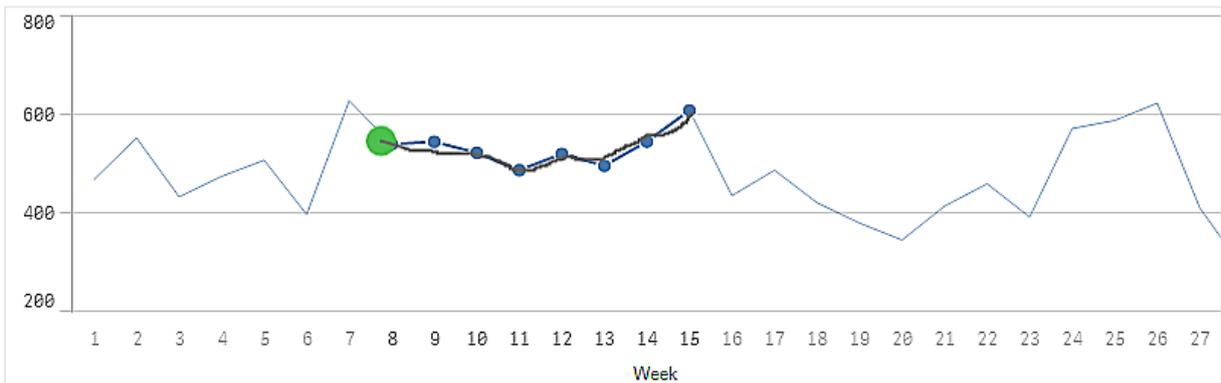
3 ビジュアライゼーションによるデータの探索

描画による選択を使用して Germany、Japan、および Nordic が選択されているフィルターパネル



折れ線グラフでは、グラフの折れ線に沿って線を引き、複数のデータポイントを選択します。

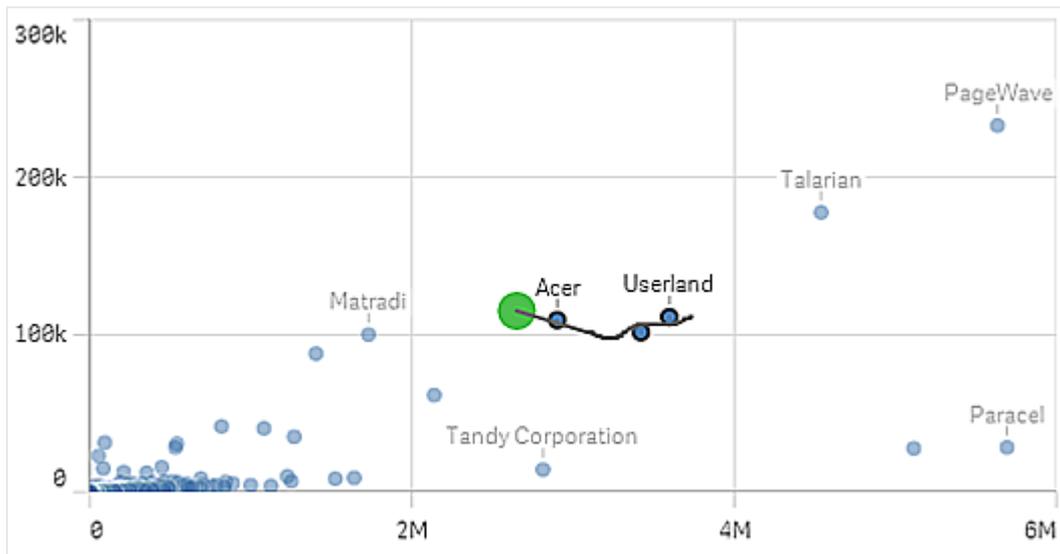
描画による選択を使用して週が選択されている折れ線グラフ



散布図では、選択したい複数の値にまたがって線を引きます。

3 ビジュアルライゼーションによるデータの探索

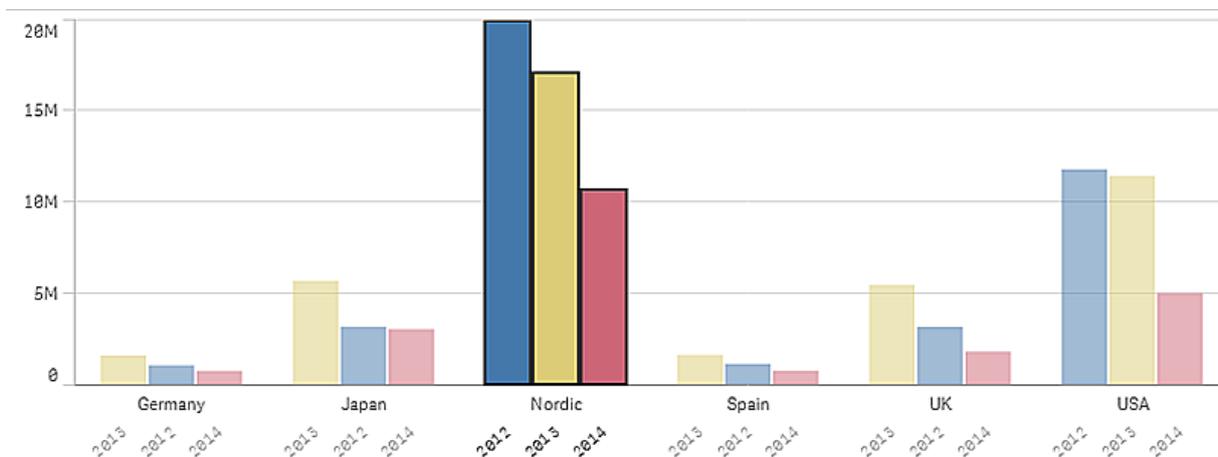
描画による選択を使用して選択が行われている散布図



ラベル選択

軸ラベルをクリックすると、軸を選択できます。軸がグループ化されていたり、積み上げられている場合は、そのグループまたはスタック全体が選択されます。

2011、2012、2013のラベルが選択されている棒グラフ。いずれかの年をクリックするとグループ全体が選択されます。



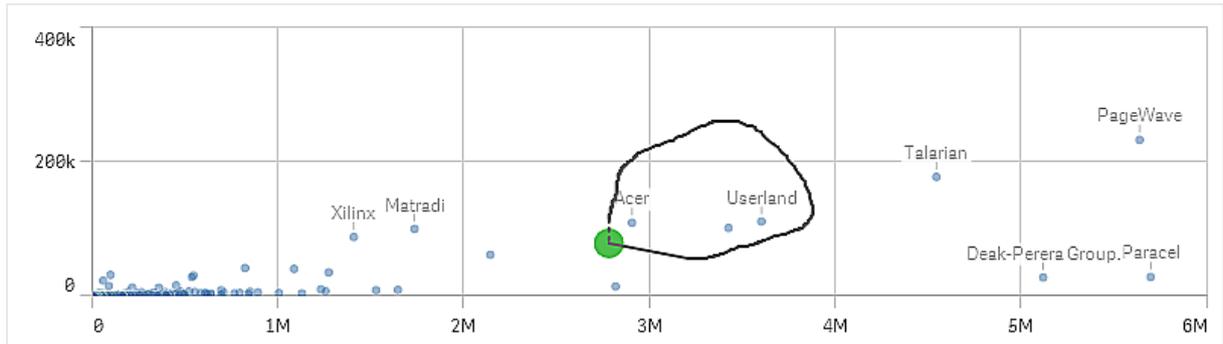
囲み選択

描画選択または囲み選択を行う場合、まずビジュアルライゼーション内をクリックし、ビジュアルライゼーションの上部にあるなげなわアイコン  をクリックして囲み選択機能を有効にする必要があります。またコンピューター操作では、Shift キーを押しながら選択することで、同様の結果が得られます。

フリーハンドで円を描き、データポイントを囲んで選択します。

3 ビジュアライゼーションによるデータの探索

囲み選択を使って散布図で行われる値の選択。



囲み選択には、表示されているデータポイントのみが含まれます。連続軸を使用するチャートの場合、チャートに表示されていないデータポイントは、選択されている領域の範囲内にある場合でも除外されます。

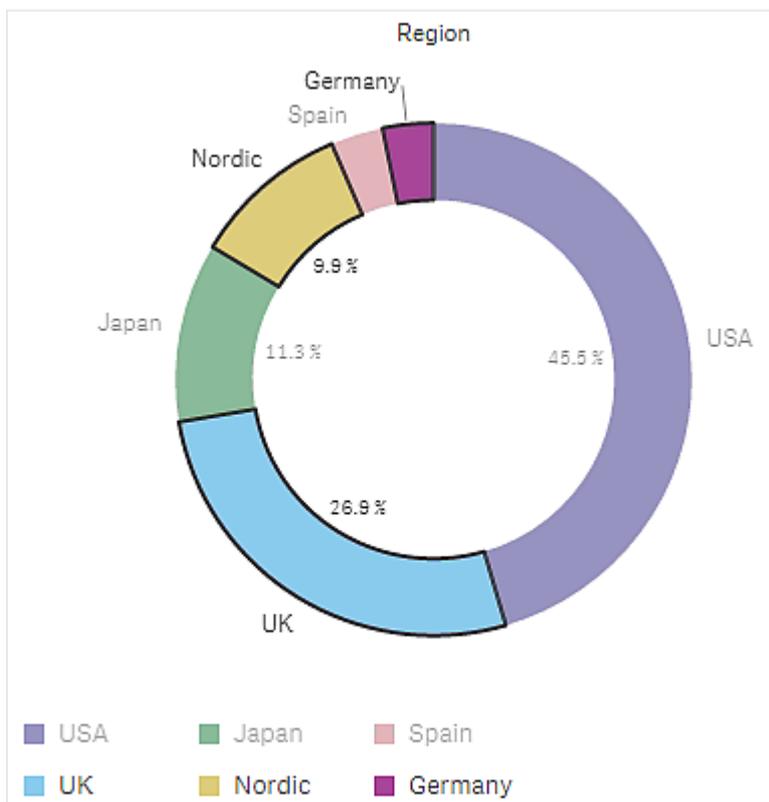
凡例による選択

[その他] 以外の凡例アイテムをクリックして、関連する値を選択することができます。



凡例による選択は、数式による色分け時にビジュアライゼーションでは使用できません。

凡例による選択を使用して、Nordic、Germany、およびUKが選択されている円グラフ。



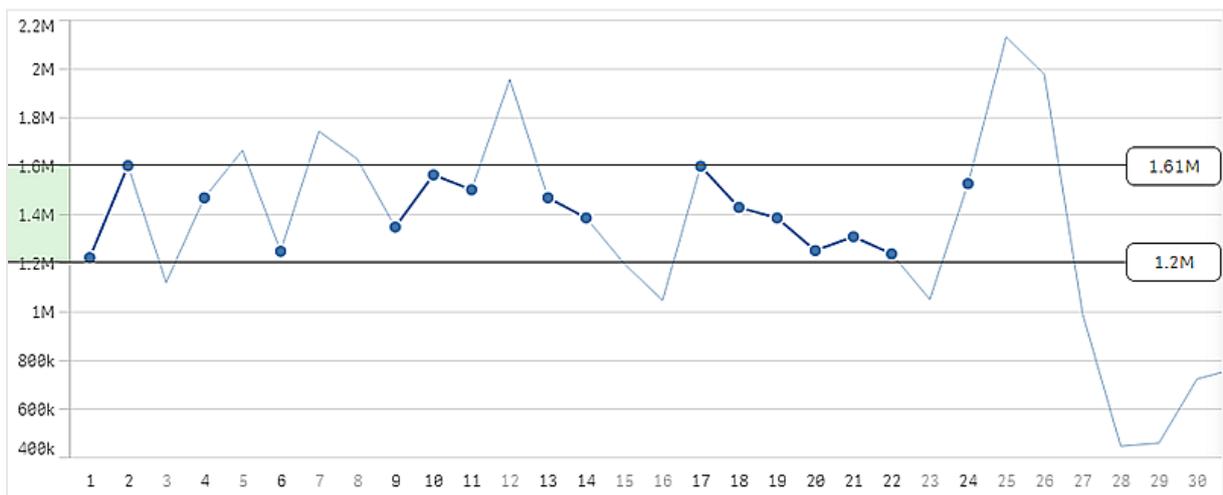
範囲選択

y 軸または x 軸で選択を行います。メジャー値を表示する軸では、範囲ポップアップ上でクリックして特定の数値を入力できます。

範囲の選択を使用して選択が行われているコンボチャート。



範囲の選択を使用して選択が行われている折れ線グラフ。



3.3 連想選択モデル

Qlik Sense では、選択が主な操作です。選択により、Qlik Sense にロードされたデータのサブセットがフィルターされます。選択は、特定の項目に焦点を当てたい場合に使用します。Qlik Sense は異なる状態に基づいて、値を色分けします。

選択を Qlik Sense の入力として考えることができます。Qlik Sense によって入力が評価され、データ値のカラーコードが出力として表示されます。

- 入力ステート: 実際に行った選択で、項目値が選択されているかどうかは関係ありません。
- アウトプットステート: 選択の論理的推論を基に、項目値が可能な値がどうかを示します。

選択状態

値を表す色は、選択に応じて変化します。フィルターパネル、選択リストのアイテム、および選択ツールは、Qlik Sense 特有の色である緑、白、グレーに色分けされます。色により、どの項目値が選択されているのか、代替値となるか、そして可能な値/除外値となるのかを把握できます。

次の表は、どの色がどの状態に使用されているのかを示しています。



選択バーや各選択状態で使用される色は、カスタムテーマを使用して変更できます。カスタムテーマを使用しているアプリで作業している場合、選択内容がこのヘルプトピックで説明されている色と同じ色で表示されないことがあります。

さまざまな状態で使用される色

色	状態
緑 (選択されたことを表すチェックマーク付き)	選択済み
白色	可能
薄いグレー	代替値
濃いグレー	除外値
濃いグレー (選択されたことを表すチェックマークが付いています)	選択除外値

選択状態

フィルターパネルで1つまたは複数の値を選択すると、値が緑色に変わり選択状態になります。下記の画像では、値 *1910s* が選択されています。これで、ロードされたデータのサブセットがフィルターされ、フィルターパネルの *Decade* と *Year* が選択内容に応じて更新されます。

3 ビジュアライゼーションによるデータの探索

Decade フィルター パネルで *1910s* が選択されています。

🔍 Decade	🔍 Year
1910s ✓	1914
1920s	1915
1930s	1916
1940s	1917
1950s	1918
1960s	1919
1970s	1920
1980s	1921
1990s	1922

フィルター パネルには合計 4 つのステートがあります。選択ステート(緑)についてはすでに説明しました。残りは絞込ステート(白)、並列ステート(薄いグレー)、除外ステート(濃いグレー)の 3 つです。それぞれのステートについて、次のセクションで説明します。

絞込ステート

Year フィルター パネルでは *1914* から *1919* までの年が白 (可能な値) で表示されています。これは、これらの値が属する *1910s* が *Decade* で選択されているためです。すべての可能な値は、値 *1910* に関連しています。つまり、絞込値から 1 つまたは複数の値を選択することで、選択を絞り込むことができます。

3 ビジュアライゼーションによるデータの探索

フィルターパネルで 1914 から 1919 までが絞込値となっています。

Q Decade	Q Year
1910s ✓	1914
1920s	1915
1930s	1916
1940s	1917
1950s	1918
1960s	1919
1970s	1920
1980s	1921
1990s	1922

下記の画像では、こうした絞込が行われています。Year フィルターパネルでは、値 1918 が選択されています。

Year フィルターパネルで 1918 が選択されています。

Q Decade	Q Year
1910s ✓	1918 ✓
1920s	1914
1930s	1915
1940s	1916
1950s	1917
1960s	1919
1970s	1920
1980s	1921
1990s	1922

2つのフィルターパネルで選択することで、絞込値は 1910s と 1918 に関連するものだけになります。フィルターパネルの選択項目には論理的な AND 条件が含まれます。したがって、可能な値は 1910s と 1918 の両方に該当するものになります。

この段階で、Year フィルターパネルに絞込ステートの値は残っていません。これは 1910s と 1918 の両方に関連する値が存在しないためです。

並列ステート

Decade フィルター パネルでは **1910s** の値が選択されていますが、フィルター パネルのその他の項目については選択値との関係に応じたステートが表示されます。

1910s が選択され、フィルター パネルのその他すべての項目には、**1910s** との関係に応じて異なるステートが表示されま

Q Decade	Q Year
1910s ✓	1914
1920s	1915
1930s	1916
1940s	1917
1950s	1918
1960s	1919
1970s	1920
1980s	1921
1990s	1922

Decade フィルター パネルの他の値はすべて、代替値を表す薄いグレーで示されています。並列ステートは、その項目で選択が行われていなければ、可能な値になり得た値を示します。**1910s** 以前の値を選択すると、**Decade** フィルター パネルの値はすべて絞込値となります。

論理的に、代替値は除外されますが、同一のフィルター パネルの 1 回の選択 (1 つまたはそれ以上の値) でのみ除外されます。**Decade** で **1910s** の選択を解除すると、すべての値が絞込ステートとなります。

値が絞込ステートでも選択自体は可能ですが、その場合には元の選択内容を絞り込む代わりに、新しい選択をすることになります。代替値が役に立つのは、同一セットの選択で代替の選択肢が利用できることです。例えば、営業担当者のリストがある場合、代替値は、選択された人を助けることまたは選択された人と交代することができる可能性のある営業担当者になります。

除外ステート

選択すると、他のフィルター パネルの値は関連付けがないため、自動的に除外されます。下の画像では、**1910s** が選択されており、その結果として **1920**、**1921**、**1922** は除外されています。**1920**、**1921**、**1922** の年は **1910s** に含まれないことから、除外されている理由は明らかです。**Decade** の他の値は代替値となります。つまり、除外されてはいるものの選択可能であり、選択範囲を広げることができます。**1920s** を選択すると値が緑色に変わり、選択ステートになります。

3 ビジュアライゼーションによるデータの探索

Year フィルター パネルで 1920、1921、および 1922 が除外されています。

Q Decade	Q Year
1910s ✓	1914
1920s	1915
1930s	1916
1940s	1917
1950s	1918
1960s	1919
1970s	1920
1980s	1921
1990s	1922

ただし、Year フィルター パネルで可能な値の 1 つを選択すると、代替値として表示されていた Decade の値が代わりに除外されます。これらの値は 1910s だけが選択されていた場合は代替値となっていましたが、2 つ目のフィルター パネルでの選択により、1910s AND 1918 の条件に合わない値が除外されます。

Year の代替値は 1918 を選択した場合にのみ除外されます。これらはすべて 1910s の値に関連付けられており、1918 が選択されるまでは絞込状態でした。

Q Decade	Q Year
1910s ✓	1918 ✓
1920s	1914
1930s	1915
1940s	1916
1950s	1917
1960s	1919
1970s	1920
1980s	1921
1990s	1922

選択除外ステート

複数のフィルター パネルで選択を行った場合、「選択除外」という 5 つ目のステートが生じる可能性があります。

前述したように、各項目値には次の 2 つの異なるステートがあります。

3 ビジュアライゼーションによるデータの探索

- 入力ステート: 実際に行った選択で、項目値が選択されているかどうかは関係ありません。
- アウトプットステート: 選択の論理的推論を基に、項目値が可能な値がどうかを示します。

最初に選択された後に別の項目の選択で除外された場合、その値は選択除外ステートになります。

選択除外ステートはチェックマークで示され、値が最初に選択され、後に除外されたことを表しています。この点が、一度も選択されたことがない除外値とは異なります。チェックマークが付いた濃いグレーの項目は、対象の値が以前に選択されていたものの、新たな選択によって選択除外値として処理されたことを意味します。

下の画像では、**1910s**と**1920s**の値が最初に選択されていました。**1910s**と**1920s**の値はどちらも選択されており(緑色)、**Year**フィルターパネル内の値はすべて白色(絞込値)で示されています。これは、これらの年はすべて**1910**年代または**1920**年代に含まれているため、初回の選択後に論理的な絞込値として認識されたためです。2回目には、**1914**、**1915**、**1916**の年が選択されています。その結果 **1920s**が論理的に除外されるため、**1920s**はアクティブな選択に含まれなくなります。ただし、**1920s**が引き続き選択されているため、選択除外値として示されます。つまり、最初に選択されていたものの、後の選択で除外されたことを意味します。一度も選択されなかった除外値と区別するには、チェックマークを確認します。

チェックマークが付いた濃いグレーの値が選択除外値です。

Q Decade	Q Year
1910s ✓	1914 ✓
1920s ✓	1915 ✓
1930s	1916 ✓
1940s	1917
1950s	1918
1960s	1919
1970s	1920
1980s	1921
1990s	1922

3.4 ビジュアライゼーションのデータの表示

ビジュアライゼーション、およびビジュアライゼーションが表すデータとの間で、表示を切り替えることができます。

データの表示では、チャートで使用されているデータが、シンプルでコントラストの高いテーブルで表示されます。これにより、アクセシビリティを考慮して設計されていない可能性のあるチャートで情報を表示するためのアクセシ

3 ビジュアライゼーションによるデータの探索

ブルなオプションが提供されます。データの表示は、分析モードで選択範囲の背後にあるデータを確認する必要がある場合にも便利です。大部分のビジュアライゼーションでは、該当するデータが含まれたテーブルをコンテキストメニューで使用できます。

データの表示が可能なビジュアライゼーション

次のビジュアライゼーションでは、ビジュアライゼーションとテーブル形式でのデータ表示の間で表示を切り替えることができます。

- 棒グラフ
- ボックスプロット(外れ値除外)
- プレットチャート
- コンボチャート
- 分布プロット
- ゲージ
- ヒストグラム
- 折れ線グラフ
- メッコチャート
- 円グラフ
- ピボットテーブル
- 散布図
- ツリーマップ
- ウォーターフォールグラフ



サポートされているチャートを表示している場合でも、分析ではデータの表示は使用できません。

データ表示をサポートするカスタム オブジェクト

Visualization bundle および Dashboard bundle から入手できる、次のチャートもデータの表示をサポートしています。

- グリッドチャート
- 組織図
- ピボットテーブル (Visualization bundle)
- 分散ウォーターフォール

コンテナのデータ表示

次のいずれかのコンテナ内の互換性のあるチャートもデータビューで開くことができます。

- タブ付きコンテナ
- レイアウトコンテナ

ビジュアライゼーションとデータ表示間の切り替え

次の手順を実行します。

1. ビジュアライゼーションを右クリックするか、ホバーメニュー^{•••}をクリックします。
2. [データを表示]を選択します。既に選択してある場合は、選択したデータのみ表示されます。
3. ビジュアライゼーションに戻るには、データ表示を右クリックし、[チャートの表示]を選択します。



編集モードに入ったり、別のシートに移動したりした場合、データ表示に切り替えられていたビジュアライゼーションは元のビジュアライゼーションに戻ります。

3.5 視覚的な探索

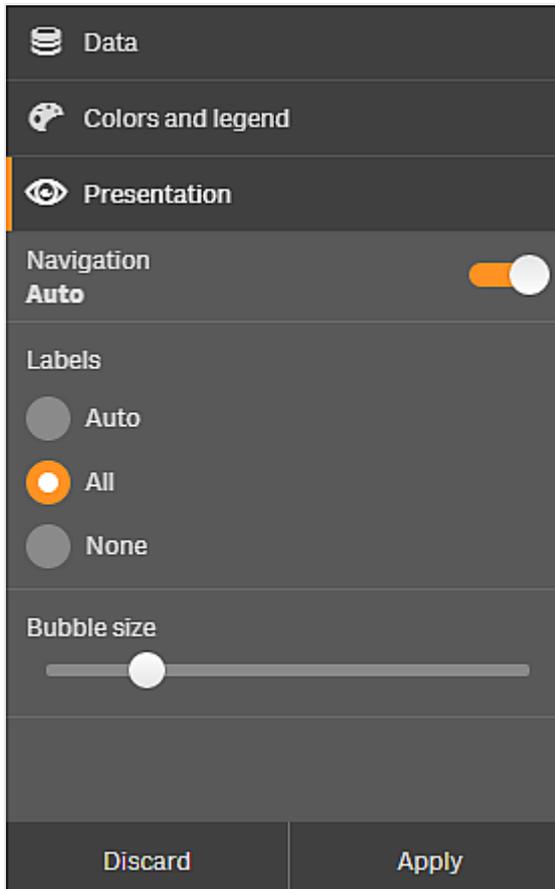
視覚的な探索メニューを使用すると、シートの選択や編集を行うことなく、ビジュアライゼーションの特定のプロパティを変更できます。たとえば、データを変更し、軸やメジャー別にデータや色を並び替え、ラベルの表示方法を変更できます。

視覚的な探索メニューの使用方法に関するビジュアルデモに関しては、[視覚的な探索](#)を参照してください。



視覚的な探索メニューは、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、散布図、ツリーマップ、ボックスプロット、分布プロット、マップ、コンボチャートなどのビジュアライゼーションで使用できます。

散布図 ビジュアライゼーションでの視覚的な探索 メニューの例



視覚的な探索メニューを使用したプロパティの変更

次の手順を実行します。

1. 分析する場合は、変更するビジュアライゼーションにマウスを合わせます。
2. ビジュアライゼーションの右上にある **⋮** をクリックするか、ビジュアライゼーションを右クリックして **[探索メニュー]** を選択します。
3. 変更するプロパティを更新します。
4. メニューを閉じて変更を保存するには、**🏠** をクリックします。このセッション中に変更が保存されます。将来使用するため変更を保存 (およびプロパティパネルで更新) するには、**[適用]** をクリックします。このボタンは、マスターアイテムでない、またはマスターアイテムにリンクしていない未公開のシートやビジュアライゼーション、およびシートを編集する権利のあるユーザーについてのみ利用できます。



[適用] をクリックして変更を保存しなかったり **[破棄]** をクリックして変更を破棄した後に、**[編集]** をクリックしてシートを変更しようとする、シートの分析時に行った変更の維持または破棄を選択するよう求めるメッセージが表示されます。

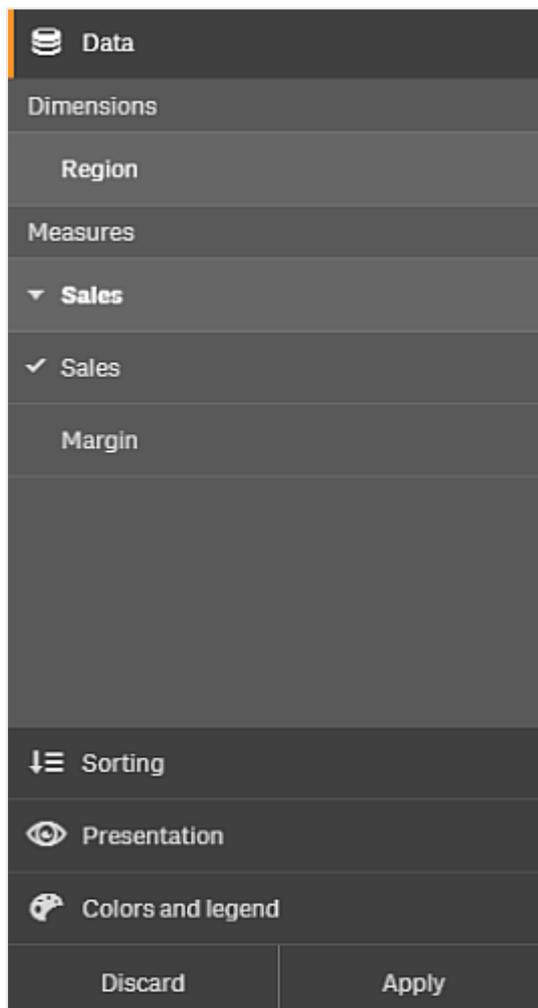
視覚的な探索メニューを使用したデータの変更

代替軸またはメジャーを使用している場合、視覚的な探索メニューでビジュアライゼーションデータを変更できます。ビジュアライゼーションで表示する軸またはメジャーをクリックするだけで変更できます。選択には ✓ が付けられます。



代替軸および代替メジャーは、ビジュアライゼーションに追加される軸およびメジャーですが、視覚的な探索の間に表示される軸およびメジャーの切り替えをユーザーが行うまで表示されません。

データ変更時の視覚的な探索メニューの例



モバイルデバイスでの視覚的な探索メニューの使用

Qlik Sense を非常に小さな画面 (幅が 640 ピクセル以下) で使用する場合、次の操作を行うことで視覚的な探索メニューにアクセスできます。

3 ビジュアライゼーションによるデータの探索

1. 変更するビジュアライゼーションをタップして、全画面表示で開きます。
2. ビジュアライゼーションの右上にある●●●をタップするか、ビジュアライゼーションをロングタッチして[探索メニュー]を選択します。
3. 変更するプロパティを更新します。
4. 変更についてのプレビューを取得するには、ビジュアライゼーションでメニューの外側をロングタッチすると、メニューが横に移動します。指を離してメニューを再び開き、変更を続けます。
5. メニューを閉じて変更を保存するには、ビジュアライゼーションの右上にある🔍をタップするか、ロングタッチして[探索メニューを開く]を選択します。

制限事項

探索メニューには、次の制限があります。

- ビジュアライゼーション探索メニューは、タブコンテナ、レイアウトコンテナ、またはレガシーコンテナオブジェクト内にあるチャートでは使用できません。

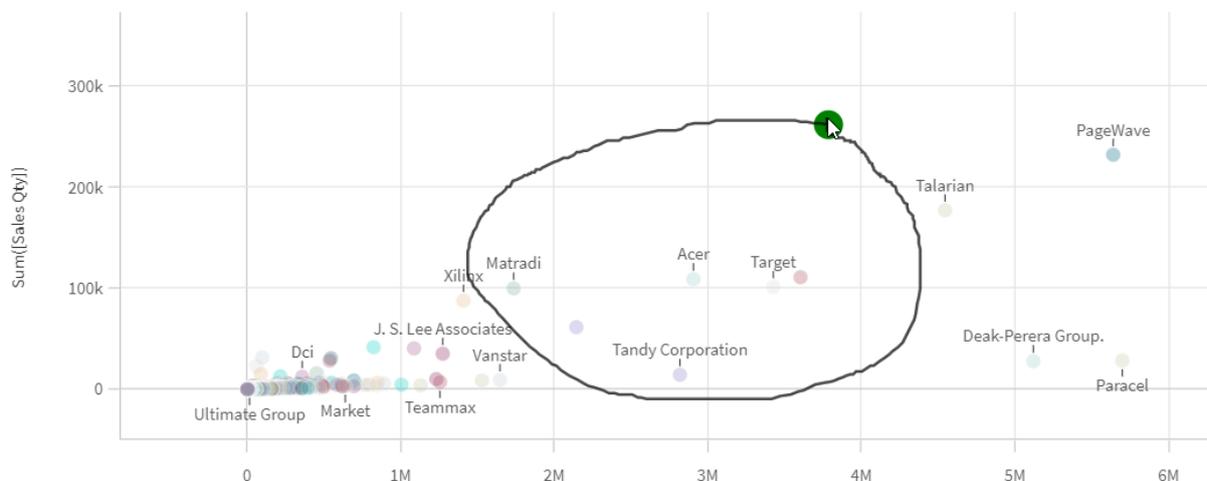
3.6 ビジュアライゼーションのスクロール

ビジュアライゼーションでスワイプ/ドラッグしてパンおよびスクロール操作を行ってから、囲み選択をオンにして描画および選択できます。

ビジュアライゼーションを使った作業の際には、データを探索するためにスクロールする必要があります。特にタッチ式デバイスの場合は、スワイプしてスクロールする方法が一般的です。データをスワイプして、目的のデータまでスクロールして選択します。スクロールする場合は、スクロールが中断されたり誤って選択することがないように、選択範囲の描画や囲み選択は無効になります。その他の選択オプションは、通常どおり使用できます。

囲み選択による選択を含む散布図

Customer Sales and Quantity



スクロールと囲み選択の使用

囲み選択がオンになった時の操作は、使用しているデバイスによって異なります。

タッチ式デバイスの操作

次の手順を実行します。

1.  をタップすると、囲み選択がオンになります。
2. 選択範囲を描画します。
連続して選択できます。
3. 選択を確定します。

選択範囲間のスクロールやパンが必要な場合は、2本指スワイプを使用します。

コンピュータ(マウス)の操作

次の手順を実行します。

1. **Shift** を押しながら選択範囲を描画します。
連続して選択できます。**Shift** を押し続けている間は、囲み選択がオンになっています。
2. 選択を確定します。

代替手順

次の手順を実行します。

1. 選択せずに、ビジュアライゼーション内でクリックします。
ビジュアライゼーションの最上部に選択オプションが表示されます。
2.  をクリックすると、囲み選択がオンになります。
3. 選択を確定します。

選択のスクロールやパンの必要性に応じて、 をクリックして囲み選択のオンとオフを切り替えます。

囲み選択をオンにする必要があるビジュアライゼーション

次のビジュアライゼーションでは、囲み選択を有効化する必要があります。

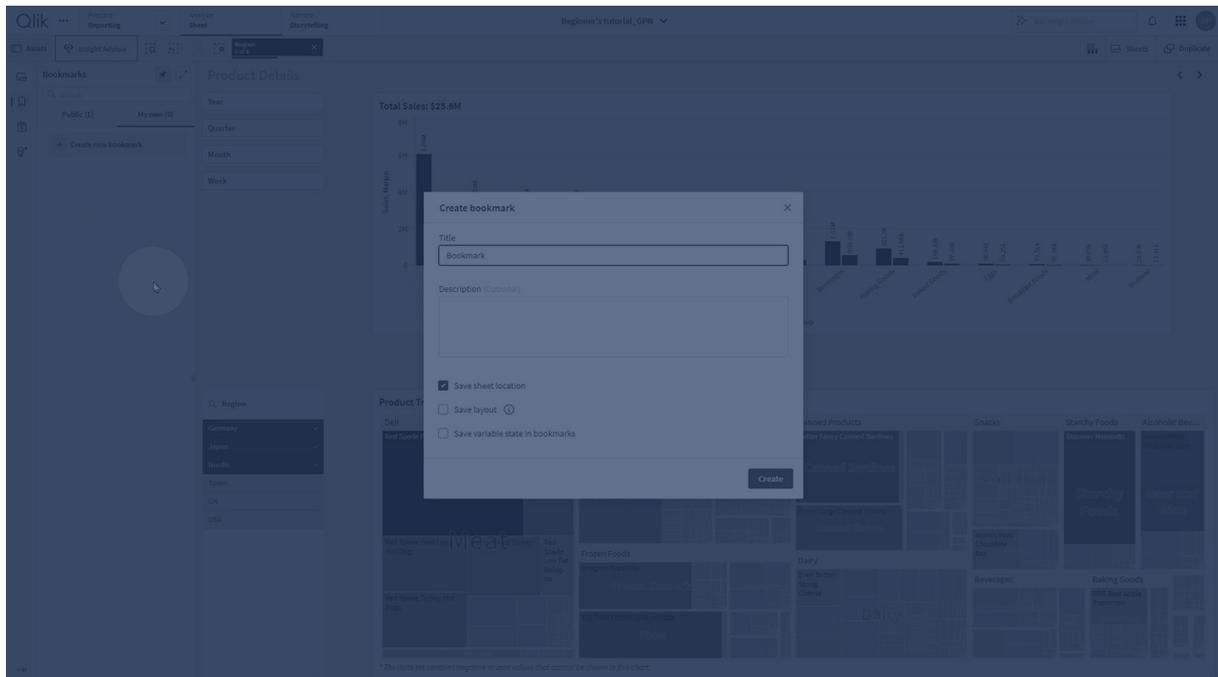
- 棒グラフ
- ボックスプロット
- コンボチャート
- 分布プロット
- 折れ線グラフ
- マップ
- 円グラフ
- 散布図
- ツリーマップ

3.7 データ取得のキャンセル

Qlik Sense を使用してサーバー上のデータを参照するときに、遅延が発生する場合があります。待ち時間が長い場合は、それぞれのビジュアライゼーションに [キャンセル] ボタンが表示されます。[キャンセル] ボタンを使用して、データ取得を停止します。それぞれのビジュアライゼーションを個別に停止する必要があります。データ取得を停止すると、[再試行] ボタンが表示されるので、もう一度試行できます。

4 ブックマークの選択

データ分析の際には、気付いた点を確認するため、あるいは他のユーザーと共有するために、シートを以前の状態に戻す必要が生じることがあります。ブックマークを使用すると、シート上の特定の選択状態を簡単に保存できます。



ブックマークでは、選択内容と特定のシート上の場所が保存されます。ブックマークは、後から開いて選択を以前の状態に復元することも可能です。ブックマークした選択内容を、ブックマークの作成に使われたシートと同じデータを持つシートに適用することができます。ブックマークツールはすべて、ツールバーの  下にあります。

アプリ内の並列ステートを使用し、ブックマークを作成する場合、ブックマークはすべてのステートの選択をキャプチャします。

ブックマークを管理するには、次の方法を知っている必要があります。

[ブックマークの作成](#)

[アプリのランディングページを作成する既定のブックマークの設定](#)

[ブックマークの削除](#)

4.1 ブックマークの作成

ブックマークを使用すると、特定の選択状態を保存できるので、後で選択状態を確認したり、他のユーザーと共有したりすることができます。

ブックマークの種類によっては、作成したブックマークのリストを開いたときにすべてのブックマークが表示されるわけではありません。ブックマークは引き続き使用でき、ブックマーク名で検索して見つけることができます。

ブックマークには、静的フィールド値の選択、[選択検索](#)を使用して生成された動的選択、またはその両方を保存できます。

ブックマークの作成

次の手順を実行します。

1. ブックマークとして保存するシートを選択します。これらの選択は、手動で選択した静的な値にすることも、選択検索に基づいて動的に変化する値にすることもできます。選択検索による動的ブックマークの作成については、「[動的ブックマークを使用した作業 \(page 32\)](#)」を参照してください。
2. アセットパネルで **[ブックマーク]** をクリックします。
3. **[ブックマークの新規作成]** をクリックします。
4. **タイトル:** 初期設定では、シートの名前と選択の概要がブックマークのタイトルとして使用されます。これは必要に応じて変更できます。



すでに並列ステートが使用している名前は使用しないでください。

5. **説明:** オプションとしてブックマークの説明を入力できます。
6. **シートを保存:** 作成時に開いていたシートに切り替えるためのブックマークを作成するには、このオプションをオンにします。オフに切り替えると、ブックマークが適用された時の現在のシートにとどまります。



この設定で保存したターゲットシートが削除されている場合やプライベートシートである場合は、ブックマークを適用してもそのシートは開きません。このブックマークに関連付けられている選択項目は、アプリにそのまま適用されます。

7. **レイアウトを保存:** チャートのレイアウト、ソート、展開を保存する場合は、オンに切り替えます。**[レイアウトを保存]** には、視覚化のスクロールや位置は含まれません。
8. **すべての変数の状態を保存:** これをオンに切り替えると、変数の現在の値がブックマークに保存されます。この設定を使用する代わりに、ブックマーク内の変数の状態をアプリ作成者が変数ごとに制御することを推奨します。



アプリ作成者が変数に **[ブックマークに含める]** を設定している場合は、変数の状態を引き続き含めることができます。



ロードスクリプトで作成された変数の状態を、**[すべての変数の状態を保存]** を使用してブックマークに保存することはできません。

9. **[作成]** をクリックします。

動的ブックマークを使用した作業

動的な選択状態を持つブックマークを作成できます。たとえば、ヨーロッパとアジアのリージョンの値を静的な値として選択するのではなく、ブックマークで合計売上が1,000,000.00ドルを超えるすべてのリージョンの値を選択できます。

動的ブックマークを使用すると、現実的なデータフィルタリングをキャプチャできます。一般的な例としては、特定の値をハードコーディングせずに、現在の期間（現在の四半期や年など）を選択することがあります。

動的ブックマークは、選択検索を使用して作成されます。詳細については、「[選択またはビジュアライゼーション内での検索 \(page 40\)](#)」を参照してください。

動的ブックマークの作成

選択ツールを使用して動的ブックマークを作成します。選択ツールの詳細については、「[選択ツールの使用 \(page 58\)](#)」を参照してください。

次の手順を実行します。

1. 分析モードのシート表示で、ツールバーのをクリックします。選択ツールが開きます。
2. [アブリ軸] セクションで、動的ブックマークを作成する軸を見つけます。既定でリストされているマスター軸のいずれかを使用することも、[項目を表示する] をオンにしてデータモデル内の任意の軸を使用することもできます。
3. 軸のリストボックスで、をクリックします。
4. 選択検索を入力します。動的ブックマークを作成するときは、検索によって少なくとも1件の選択結果が得られる必要があります。

```
=YearMonth>=Quarterstart(Now(),-1)  
=Sum(Sales)>1000000  
=ShippedStatus<>'Shipped'
```

選択検索では、テキスト、数値、式、または複合検索を使用できます。詳細については、「[選択またはビジュアライゼーション内での検索 \(page 40\)](#)」を参照してください。

5. キーボードの ENTER キーを押します。これにより選択検索が適用され、動的な選択状態が作成されます。
6. 必要に応じて、ブックマーク定義に追加の選択検索（または静的フィールド選択）を追加できます。上記のステップを繰り返して選択検索をさらに追加するか、任意の選択方法を使用して静的フィールド値を選択します。
7. アセットパネルで [ブックマーク] をクリックします。
8. [ブックマークの新規作成] をクリックします。
9. 新しいブックマークの設定を構成します。具体的な設定については、「[ブックマークの作成 \(page 31\)](#)」を参照してください。
10. [作成] をクリックします。

動的ブックマークを作成する別の方法

他の選択検索方法を使用して動的ブックマークを作成することもできます。これには次が含まれます。

- テーブルベースのビジュアライゼーション - 具体的には、**テーブル**、**ストレートテーブル**、**ピボットテーブル**、**ピボットテーブル (Visualization bundle)** を使用します。
- **[データの表示]** 機能をサポートするビジュアライゼーションを使用します。

しかし、ビジュアライゼーションはすでに限られたデータセットで構成されていることが多いため、この方法で選択範囲を検索しても、少なくとも1つの選択範囲が常に表示されるとは限りません。このため、動的ブックマークを作成する最も簡単な方法は、選択ツールを使用することとなります。

ステートおよび set 数式

ブックマークを作成または編集する場合、すでにブックマークされている、候補の並列ステートが表示されます。選択を含むステートの場合、その選択の **set** 数式も表示されます。

[コピー] をクリックして **set** 式をコピーできます。



ブックマーク選択に計算軸が含まれている場合、**set** 数式は **MISSING VALUES** を表示し、使用できません。

ブックマークのオプション

シート表示でブックマークを右クリックすると、次のオプションが表示されます。

- **ブックマークを適用**: ブックマークに保存された選択が適用され、ブックマークの出所のシートが表示されます。以前の選択は削除されます。
- **選択のみを適用**: ブックマークに保存された選択が適用されます。以前の選択は削除されます。
- **公開する**: ブックマークを公開すると、誰でも使用できるようになります。ブックマークを公開すると、ブックマークの所有者ではなくなります。
- **非公開にする**: ブックマークを非公開にすると、元の所有者の非公開ブックマークに戻ります。
- **詳細**: 場所、レイアウトステート、**set** 数式を表示します。
- **リンクをコピー**: 共有できるようにブックマークの場所をコピーします。
- **既定のブックマークとして設定**: アプリを開くと、アプリ概要ページの代わりに、既定のブックマークのレイアウト状態と選択状態が使用されます。「[アプリのランディングページを作成する既定のブックマークの設定 \(page 35\)](#)」を参照してください。
- **削除**: ブックマークが削除されます。

ブックマークの検索

次の手順を実行します。

1. シートで、アセットパネルの **[ブックマーク]** をクリックします。
2. 検索フィールドに検索条件を入力します。
入力したテキストに応じて、項目がリアルタイムで絞り込まれます。



ブックマークの検索では、**Qlik Sense** によって、タイトルと説明に一致する項目が検索されます。

ブックマークのタイトルと説明の変更

ブックマークのタイトルと説明は、いつでも変更できます。

次の手順を実行します。

1. シートで、アセットパネルの **[ブックマーク]** をクリックします。
2. 自分のブックマークの下で、編集したいブックマークの **•••** をクリックし、**[詳細]** を選択します。
3. **[詳細を編集]** をクリックします。
4. **[タイトル]** と **[説明]** を変更します。
5. **[完了]** をクリックします。

変更内容は自動的に保存されます。



アプリ概要でも、同じ手順でブックマークを編集できます。

プライベートブックマークの選択の更新

アプリが個人スペースまたは共有スペースにある場合は、プライベートブックマークの選択を変更できます。

次の手順を実行します。

1. ブックマークとして保存するシートで新しい選択を実行します。
これらの新しい選択は、元のブックマークの選択を完全に上書きします。
2. シートで、アセットパネルの **[ブックマーク]** をクリックします。
3. 自分のブックマークの下で、編集したいブックマークの **•••** をクリックし、**[詳細]** を選択します。
4. **[ブックマークの更新]** をクリックします。
5. **[Confirm] (確定)** をクリックします。

ブックマークが更新されました。

ブックマークを閲覧できるユーザーを変更する

ストリームに公開された Qlik Sense アプリの場合、公開前にアプリ内にあった既存のブックマークは公開ブックマークになります。

アプリの公開後に新しいブックマークを追加できます。ブックマークは **コミュニティ** 内で公開および非公開にでき、他のユーザーが使用できます。

詳細は以下をご覧ください。

- [ブックマークの公開](#)
- [ブックマークの公開を取り消す](#)

制限事項

- ブックマークの種類によっては、作成したブックマークのリストを開いたときにすべてのブックマークが表示されるわけではありません。ブックマークは引き続き使用でき、ブックマーク名で検索して見つけることができます。

4.2 アプリのランディング ページを作成する既定のブックマークの設定

既定のブックマークを設定して、アプリのランディング ページとするシートを選択できます。アプリを開いたときに、既定のブックマークのレイアウト ステートと選択 ステートが使用されます。

既定のブックマークを設定しない場合には、アプリを開くとアプリ概要が表示されます。

既定のブックマークの使用時には、以下を考慮します。

- 未公開アプリでは、既定のブックマークの設定または削除のみ可能です。
- 1つのアプリに既定のブックマークを1つだけ設定できます。
- シートを表示するときに、既定のブックマークの選択をクリアすることができます。ただし、シートを再度開くかリロードすると、ブックマークが適用されます。
- 公開アプリでは、アプリの消費者は既定のブックマークの選択をクリアして、他の選択を実行できます。ただし、アプリの消費者がシートを再度開くかリロードすると、既定のブックマークの選択状態が再適用されます。
- アプリを複製すると、そのアプリで既定のブックマークが複製されます。
- アクティブセッションで同じアプリを別のタブで開いた場合、既定のブックマークは別のタブでの選択を上書きしません。

既定のブックマークと項目に対する**[1個の値を常に選択]**とを組み合わせ使用して、アプリ使用者に対して特定の選択をハイライトすることができます。



以前のバージョンの **Qlik Sense** では、既定のブックマークはブックマークの選択ステートにのみ適用されます。



既定のブックマークの設定

次の手順を実行します。

1. シートで、アセットパネルの **[ブックマーク]** をクリックします。
2. 既存のブックマークを右クリックし、**[Set as default bookmark]** (既定のブックマークとして設定する) をクリックします。
3. ブックマークをクリックします。ブックマークがデフォルトとしてリストされ、選択内容がアプリに表示されます。
4. 既定のブックマークが適切に機能していることをテストするには、アプリを閉じて再度開きます。既定のブックマークシートと選択が表示されるはずですが。

既定としてのブックマークを削除する場合は、未公開アプリで **[ブックマーク]** ウィンドウを開き、既定のブックマークを右クリックします。 **[Remove as default bookmark]** (既定としてのブックマークを削除する) をクリックします。次回にアプリを開いたときには、アプリ概要が表示されます。

4.3 ブックマークの削除

ブックマークを削除する方法は複数あります。

シート表示でのブックマークの削除

次の手順を実行します。

1. シートで、アセットパネルの **[ブックマーク]** をクリックします。
2. 削除したいブックマークの横にある **•••** をクリックして **[削除]** を選択します。
3. ブックマークの削除を確認するには、ダイアログで **[削除]** をクリックします。

これでブックマークが削除されます。

アプリの概要からのブックマークの削除

次の手順を実行します。

1. アプリ概要から、**[ブックマーク]** をクリックしてブックマークを表示します。
2. 削除したいブックマークの横にある **•••** をクリックして **[削除]** を選択します。
3. ブックマークの削除を確認するには、ダイアログで **[削除]** をクリックします。

これでブックマークが削除されます。



ブックマークのダイアログでブックマークを右クリックし、**[削除]** を選択できます。

5 選択による探索

分析中、選択内容はシートの上部に表示されます。

選択アイテムにはそれぞれ下部に小さなバーがあり、軸の選択ステートを反映しています。このバーでは、選択済み (緑)、代替 (薄いグレー)、除外 (濃いグレー) の3つのステートが使用されます。ロックされた値にはロックアイコンが付いています。

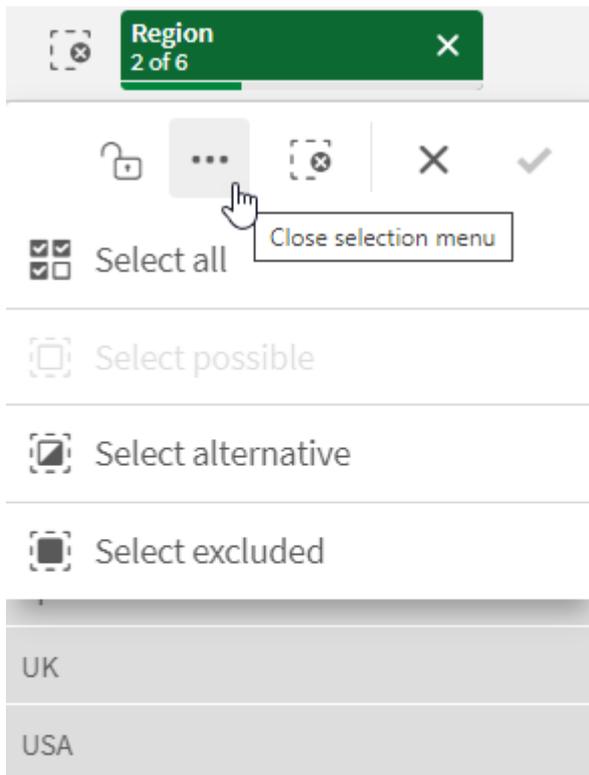
年、製品グループ、地域の選択が示される選択バー。[地域] はロックされています。



Qlik Sense を使用してアプリを保存する場合、現在の選択とロックは保存されません。選択とロックは、アプリを開くときに毎回行う必要があります。

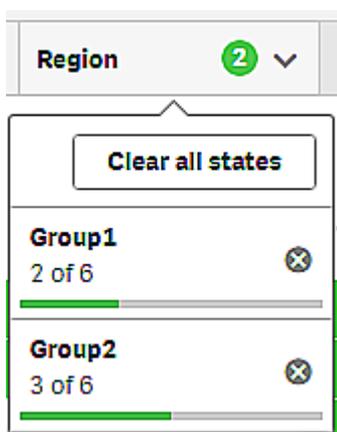
選択アイテムをクリックすると、ポップアップが表示されます。これにより、選択内容を表示、編集、またはクリアできます。また、軸の値を検索したり、選択をロックすることも可能です。下の画像では、選択メニューが開いています。以前に選択した内容によっては、一部のオプションが使用できない場合があります。

選択ポップアップメニューのある[地域]選択。



アプリで並列ステートを使用すると、ステートで行った選択を選択バーで確認できます。ステートで使用される項目は、代替ステートの数とともに表示されます。項目をクリックするとステートが表示され、ステートをクリックすると選択内容が表示されます。ステートの選択をクリアすること、または選択をすべてクリアすることができます。

ステートGroup1とGroup2の代替ステートポップアップメニューを含む地域選択。



シートには、シートに移動したときにトリガーされるアクションを設定できます。アクションに応じて、選択内容やステートが変わる場合があります。

5.1 選択オプション

すべて選択

すべての値が選択されます (✓ とマーク)。代替値のステートが選択ステート(緑色)に、除外値のステートが除外選択ステートに変わります。除外値はまだ濃いグレーのままですが、選択されています (✓ とマーク)。これらの値が除外される原因となった選択をクリアすると、選択ステート(緑色)に変わります。

絞込値を選択

可能な値(白)がすべて選択されます。選択が行われているときには、他の値は代替値または除外値のいずれかになるため、このオプションは、選択アイテムでは利用できません。ただし、フィルターパネルでは、別の選択の結果としての絞込値を利用できます。

代替項目を選択

すでに項目で選択が行われている場合、代替値は薄いグレーで表示されます。これらは、項目で選択が行われていない状態では可能な値(白)となる値です。

代替値を選択すると、以前に選択された値が代替値になります。

除外値を選択

代替値がある場合は、これが選択値(緑色)になり、以前に選択されていた値が代替値に、除外された値のステートは除外に変わります。

代替値がない場合、除外値が選択値(緑色)になり、以前に選択されていた値が代替値に変わります。

5.2 選択バーのラベル

対応する選択内容に対してマスター軸がアセットライブラリに存在する場合、そのマスター軸の軸ラベルが選択バーに表示されます。

5.3 カスタム テーマと選択状態の色

選択バーや各選択状態で使用される色は、カスタム テーマを使用して変更できます。カスタム テーマを使用しているアプリで作業している場合、選択内容がこのヘルプ トピックで説明されている色と同じ色で表示されないことがあります。

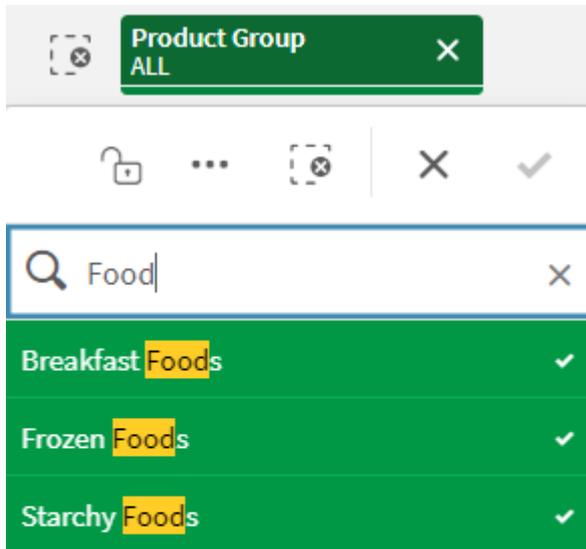
5.4 選択またはビジュアライゼーション内での検索

値を検索し、絞り込んだ結果リストからさらに選択することができます。選択バーおよびビジュアライゼーション内で、フィルター パネルやテーブルなどの選択アイテムを検索できます。検索では、大文字/小文字を区別しません。

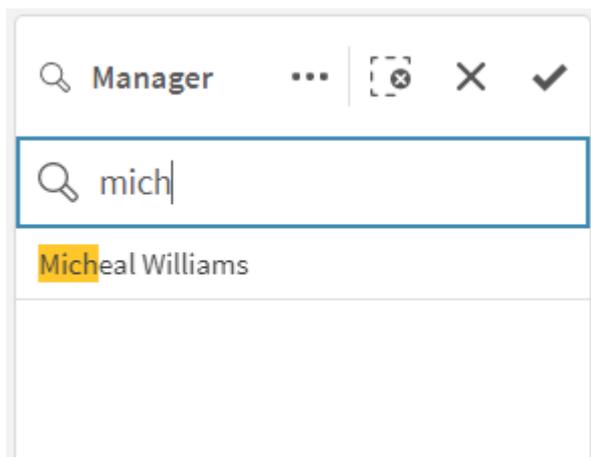
5 選択による探索

選択アイテムをクリックして、選択ポップアップに検索文字列を入力します。入力したテキストに応じて項目がで絞り込まれ一致した値が表示されます。除外された値も含め、すべての一致が表示されます。

[製品グループ] 選択で「Food」を検索した結果。

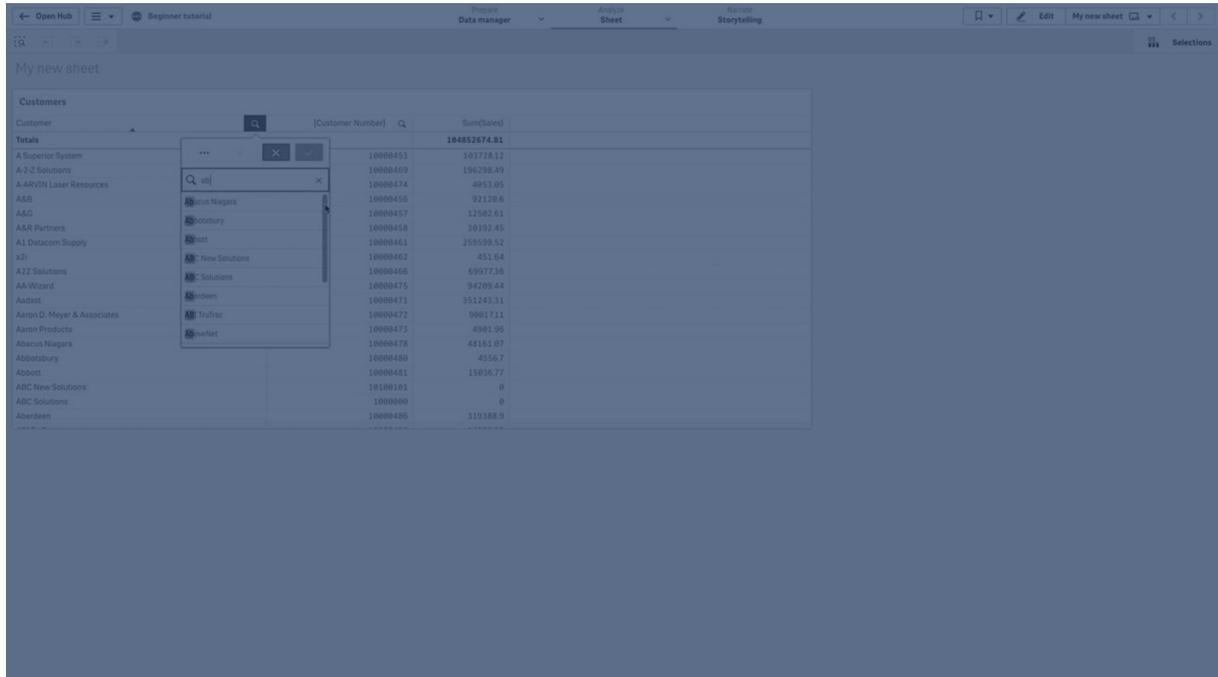


[マネージャー] フィルター パネルで「Mich」を検索した結果。



 最大 64,000 文字を含む文字列を検索できます。

複数の言語でのバージョンの例を含む PDF については、[Qlik Sense Cheat Sheet バージョン 2.0](#) を参照してください。



検索タイプ

Qlik Sense は、選択およびビジュアライゼーションにおいて、次の検索方法をサポートしています。

検索方法

検索タイプ	説明	例	検索項目でサポートされているデータ型
テキスト検索	引用符、ワイルドカード、修飾子 (マイナスとプラス) を含むテキストを使用します。テキスト検索は、通常検索とワイルドカード検索という2種類の検索モードに分かれています。 詳細については、「 テキスト検索 (page 43) 」を参照してください。	<i>*company</i>	テキスト文字列、数値、デュアル値
数値の検索	関係記号 (" $>$ "、" $>=$ "、" $<$ " または " $<=$ ") は値の超、未満、などを検索できます。詳細については、「 数値の検索 (page 49) 」を参照してください。	$>=5<20$	数値、デュアル値
あいまい検索	チルダ記号 "~" を前に付けると、あいまい一致を検索できます。詳細については、「 あいまい検索 (page 51) 」を参照してください。	<i>~beast company</i>	テキスト文字列、数値、デュアル値

検索タイプ	説明	例	検索項目でサポートされているデータ型
数式の検索	等号 ("=") は数式を示します。数式に一致する項目値が選択されます。詳細については、「 数式の検索 (page 51) 」を参照してください。	<code>=sum (Sales)> 1000000</code>	テキスト文字列、数値、デュアル値
複合検索	検索演算子を使用して、複数の検索を1行にまとめます。詳細については、「 複合検索 (page 53) 」を参照してください。	<code>(*ABC* & ?*Inc*)</code>	テキスト文字列、数値、デュアル値

テキスト検索

テキスト検索は、Qlik Sense で使用できる主な検索方法です。フィールド内の値を検索するには、引用符、ワイルドカード、および修飾子を使用します。検索文字列が入力されると、Qlik Sense は項目値をフィルタリングし、一致したアイテムを表示します。

テキスト検索は2つの検索モードに分かれます:

- 通常検索
- ワイルドカード検索

テキスト検索内の検索モード

検索タイプ	説明	例	対応しているデータ型
通常検索	プラスとマイナス修飾子を含むテキストを使用する	<code>ACME -Inc</code>	文字またはテキスト文字列、数値、デュアル値
ワイルドカード検索	ワイルドカードを含み、プラスとマイナス修飾子を除外したテキストを使用する	<code>*company</code>	文字またはテキスト文字列、数値、デュアル値

通常検索

通常テキストにはワイルドカードが含まれませんが、プラスとマイナス修飾子は含むことができます。通常検索はインタラクティブにのみ使用でき、set 分析数式内の検索では使用できません。

標準検索を実行すると、検索文字列に一致する文字列が表示されます。複数の文字列を空白で区切って使用すると、それぞれの文字列が個別の検索文字列と解釈され、その文字列のいずれかを含むすべての項目値が表示されます。

単一の検索文字列を使用した通常テキスト検索 (引用符なし)

The screenshot shows a search bar with a dropdown menu. The search bar contains the text 'abc'. Below the search bar, a list of search results is displayed, each with a yellow highlight on the words 'abc' and 'Solution' or 'Company'. The results are: 'ABC New Solution', 'ABC Solution', 'Neat ABC Company', and 'Solutions ABC Inc'.

スペースで区切られた2つの検索文字列を使用した通常テキスト検索 (引用符なし)

The screenshot shows a search bar with a dropdown menu. The search bar contains the text 'abc solution'. Below the search bar, a list of search results is displayed, each with a yellow highlight on the words 'abc' and 'Solution' or 'Company'. The results are: 'ABC Solution', 'ABC New Solution', 'Solutions ABC Inc', 'Neat ABC Company', and 'Solution Company Inc'.

次の表には、通常検索のさらなる例と結果の説明が含まれています。

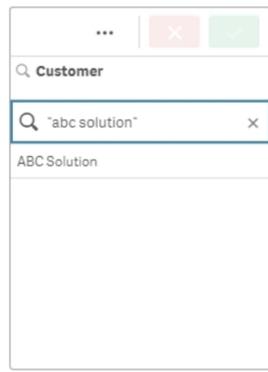
通常テキスト検索の例

例	結果
"orange juice"	"orange juice" という文字列全体が含まれる項目値のみを検索します。「 引用符 (page 44) 」を参照してください。
orange juice	引用符がなければ、「orange」または「juice」のいずれかが含まれる項目がすべて表示されます。
+orange +juice	「orange juice」、「orange and apple juice」や「juice from oranges」のような結果が返されます。「 プラス修飾子 (+) (page 45) 」を参照してください。
-orange -juice	orange や juice を含む結果は除外されます。「 マイナス修飾子 (-) (page 45) 」を参照してください。

引用符

別々の検索文字列を、1つの文字列として解釈させたい場合、二重引用符 ("") で囲み、文字列を1つにまとめます。

単一の検索文字列を使用したテキスト検索 (引用符で囲まれたもの)



修飾子

修飾子を使用すると、特定の条件を満たす値を含めたり除外したりして、検索結果を絞り込むことができます。

次の2種類の修飾子を使用できます。

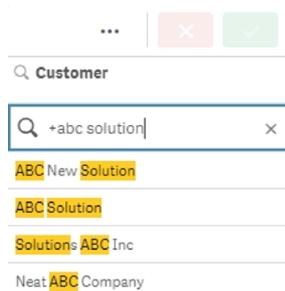
- プラス修飾子 (+)
- マイナス修飾子 (-)

プラス修飾子 (+)

プラス修飾子を使用して、一致するアイテムには、プラス記号の付いた文字列が含まれる必要があるという条件を設定します。ただし、文字列は必ずしも隣り合っている必要はなく、入力された順番どおりである必要もありません。

次の例では、プラス修飾子が **abc** の値の隣に配置されています。結果にはこの値が含まれている必要がありますが、順番は関係ありません。2番目の文字列の **solution** は、この条件の範囲外であるため、結果に表示されることはあっても存在する必要はありません。

プラス修飾子 (+) を含む検索

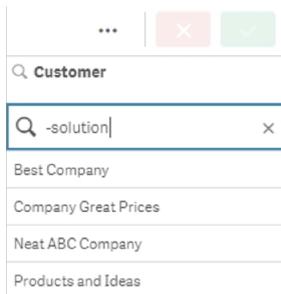


マイナス修飾子 (-)

検索用語の前にマイナス修飾子を配置すると、そのテキストを含む検索結果は除外されます。

この例では、「**solution**」という単語の前にマイナス記号を配置することで、この文字列を含むすべての値が結果から削除されています。

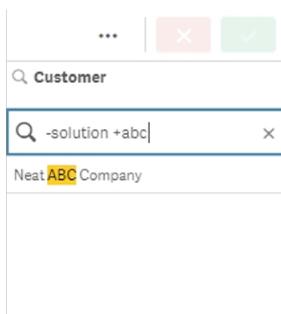
マイナス修飾子 (-) を使用した検索文字列



修飾子の組み合わせ

マイナス修飾子とプラス修飾子を、1回の検索で組み合わせることができます。この例では、「solution」の文字列を含む値は除外され、値が結果に表示されるためには「abc」の文字列が存在する必要があります。

マイナス修飾子とプラス修飾子を組み合わせさせた検索



ワイルドカード検索

ワイルドカード検索では、テキスト検索の柔軟性を高めることができます。ワイルドカード検索はインタラクティブな状況で、set 分析と併用できます。ワイルドカード検索にプラスまたはマイナス修飾子を含めることはできません。

検索文字列では 1 つまたは複数のワイルドカードを使用できます。次のワイルドカードを使用できます。

- * ワイルドカード
- ? ワイルドカード
- ^ ワイルドカード

ワイルドカードテキスト検索の例

例	結果
a*	“a”の文字で始まるすべての値を検索します(最初の語が“a”で始まる、複数の単語から成る文字列を含めて)。
*b	“b”の文字で終わるすべての値を検索します(最後の語が“b”で終わる、複数の単語から成る文字列を含めて)。
c	“c”の文字を含むすべての値を検索します(いくつかの語から成る文字列を含めて)。

例	結果
^ab	“ab” で始まる語を含むすべての値を返します。 “ab” の通常の検索と同じですが、通常の検索とは異なり、ワイルドカードを使用したより複雑な絞り込みも可能です。Set 分析など、プログラム検索でも使用できます。
r?ck	“r” で始まり、間に任意の文字をはさんで“ck” で終わる、4 文字の値をすべて検索します (“rack”, “rick”, “rock” や “ruck” など)。
r?? ????d	“r” で始まる 3 文字の単語、および “d” で終わる 5 文字の単語に相当する値をすべて検索します。



ワイルドカードを使用すると、検索文字列全体と一致するレコードのみが表示され、空白が論理和 (OR) と解釈されることはありません。検索文字列 “*creamed” は、“Rocky's creamed corn” に一致するとはみなされません (“creamed” で終わっていないため)。また “creamed*” も、“Rocky's creamed corn” に一致するとはみなされません (“creamed” で始まっていないため)。



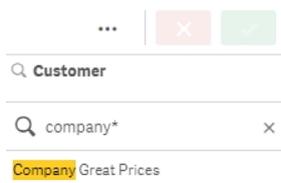
検索文字列にスペースが含まれていると、異なる結果となります。例えば “*corn” で検索した場合には、“corn” で終わるものだけでなく “popcorn” で終わる文字列も検出されますが、“*corn” のように検索文字列にスペースを含めると、“corn” で終わる文字列のみが返されます。

* ワイルドカード

* ワイルドカードは、スペースを含む 0 文字以上の文字の代わりに使用されます。このワイルドカードには柔軟性があり、特定の位置の任意の文字または文字の塊と一致します。

この例では、「company」の文字列で始まるすべての値が結果に表示されます。

定義された文字の後に * ワイルドカードを使用した検索文字列



ここでは、「company」の文字列で終わるすべての値が結果に表示されます。

定義された文字の前に * ワイルドカードを使用した検索文字列

... [X] [✓]

Q Customer

Q *company X

Best Company

Neat ABC Company

文字列の前後に * ワイルドカードを配置すると、この文字列を含むすべての値が結果に含まれます。

定義された文字の前後に * ワイルドカードを使用した検索文字列

... [X] [✓]

Q Customer

Q *company* X

Best Company

Company Great Prices

Neat ABC Company

Solution Company Inc.

? ワイルドカード

? ワイルドカードは、スペースを含む単一の文字の代わりに使用されます。このワイルドカードは、スペルに自信がなく文字列にスペルの間違いが含まれているかもしれない場合、あるいは正確に入力するのが難しい特殊な文字や記号が文字列に含まれている場合に役に立ちます。

このワイルドカードは、文字列内のすべての文字に置き換えることも、定義された文字と組み合わせて使用することもできます。

すべての文字に? ワイルドカード記号を使用した検索文字列

... [X] [✓]

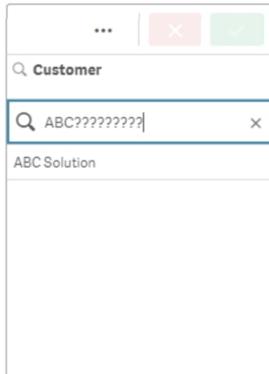
Q Customer

Q ?????????????? X

ABC Solution

Best Company

定義された3文字の後に?ワイルドカード記号を使用した検索文字列

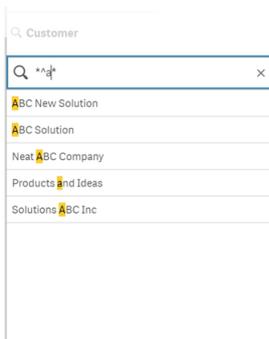


^ ワイルドカード

^ ワイルドカードは、項目値内の単語の先頭にある文字で値をフィルタリングするために使用されます。このワイルドカードは、他のワイルドカードと組み合わせるのみ使用されます。

この例では、「**^a***」の検索文字列は、「**a**」の文字で始まる文字列を含むすべての値を返します。

^と*のワイルドカードを使用した検索文字列

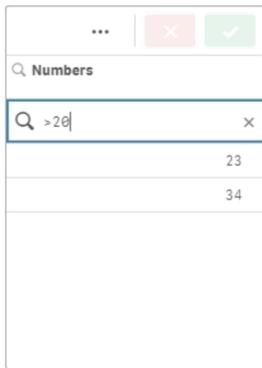


数値の検索

数値の検索は、テキスト検索と非常に類似しています。唯一の違いは、検索文字列が、">" (より大きい)、">=" (以上)、"<" (より小さい)、または "<=" (以下) のいずれかで始まる必要があることです。

数値要件を満たす値のみが一致します。

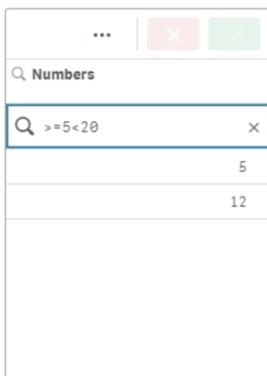
1回の比較によるフィールド値の数値検索 (20より大きい)



Numbers	
Q >20	x
23	
34	

1回の検索に複数の数値演算子を組み合わせることができます。

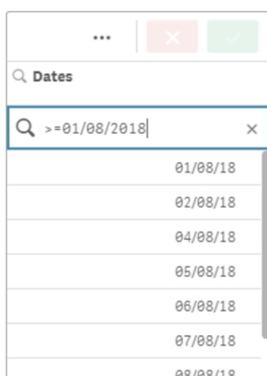
多重比較によるフィールド値の数値検索 (5以上 20より小さい)



Numbers	
Q >=5<20	x
5	
12	

数値検索は、日付フィールドのフィルタリングにも使用できます。

2018年1月8日以降の日付の数値検索



Dates	
Q >=01/08/2018	x
01/08/18	
02/08/18	
04/08/18	
05/08/18	
06/08/18	
07/08/18	
08/08/18	

次の表には、数値検索のさらなる例と結果の説明が含まれています。

数値検索の例

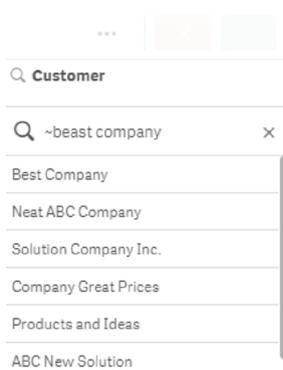
例	結果
>900	900 より大きい値をすべて検索します。
<=900	900 以下の値をすべて検索します。
>900<1000	900 より大きく、かつ 1000 より小さい値をすべて検索します。
<900>1000	900 より小さい、または 1000 より大きい値をすべて検索します。

あいまい検索

あいまい検索は、検索入力と同一ではない可能性がある値のリストを返します。

あいまい検索はテキスト検索に似ていますが、検索文字列の類似度合いに応じて、すべての項目値を比較・ソートする点が異なります。特に、項目にスペルミスがある場合、あいまい検索が有効です。また、ほぼ同じ値を複数個探し出したいときにも役立ちます。

あいまい検索



数式の検索

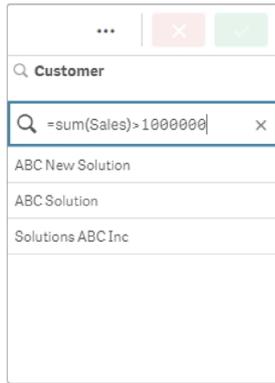
数式の検索では、検索項目に関連付けられたすべての項目で値を検索できます。

数式検索は、必ず等号 ("=") で開始します。式は、検索項目に関連付けられたすべての項目のすべての値に対して評価されます。数式の検索によって 0 以外の値が返される、すべての値が選択されます。

Sales 値が含まれるフィルターパネルでは、" $=\text{Sum}(\text{Sales}) > 1000000$ " のように検索することで、1,000,000 よりも大きな値を検索できます。これは簡単な検索であり、" >1000000 " の数値検索を用いることでも同じ結果を得られます。多くの場合は、数式検索が唯一の検索手段となります。例えば、関連項目における値を検索したい場合は、数式検索を使用しなければなりません。

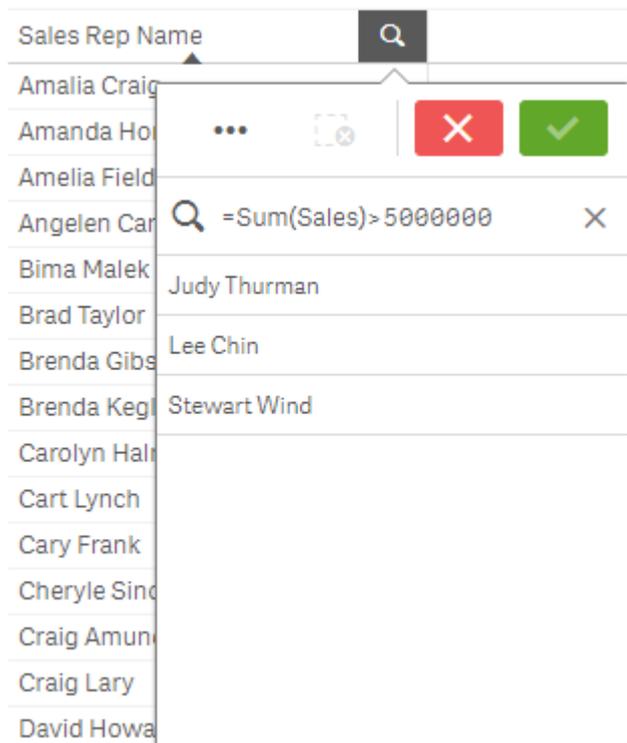
以下の例では、[Customer] 項目で " $=\text{Sum}(\text{Sales}) > 1000000$ " を検索すると、[Customer] 項目で Sales 列の値が 1000000 より大きいすべての値が返されます。

数式の検索



Sales Reps (営業担当者) のフィルターパネルが存在すると仮定しましょう。数式検索を使用すると、売上が 5,000,000 を超えている営業担当者を検索できます。検索文字列は前述のものと似ており、**"=Sum(Sales) > 5000000"** となります。売上高は営業担当者に関連付けられているため、Sales Rep フィルターパネルで検索できます。

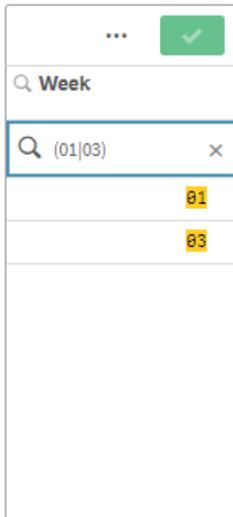
検索文字列を使用したフィルターパネルでの数式の検索



複合検索

複合検索では、2つ以上の検索を検索演算子で組み合わせることができます。これにより、データのカスタマイズされた特定のフィルタリングが可能になります。複合検索は、検索を一連の括弧で囲むことによってトリガーされます。1つの複合検索で複数の検索演算子を使用できます。

Qlik Sense での複合検索



最も基本的なフォームでは、複合検索には単一の値を含めることができます。他の検索方法とは異なり、単一の用語の複合検索では、検索用語と完全に一致する値のみが返されます。これは、データのより具体的な検索を作成するのに役立ちます。

単一の検索用語を使用した複合検索

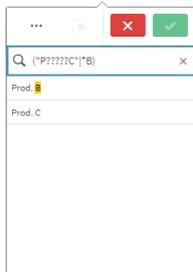
Sales per Region

Region	Sales	# of Invoices
...	674.81	38314
...	936.92	2915
Q (Spain)	615.03	7884
Spain	965.91	6613
...	601.72	1957
...	182.23	8230
...	691373	10715

複合検索には、1つ以上のワイルドカードを含めることができます。検索コンテンツにスペースが含まれている場合は、複合検索内に表示される値を引用符で囲みます。

引用符とワイルドカードの詳細については、「[テキスト検索 \(page 43\)](#)」を参照してください。

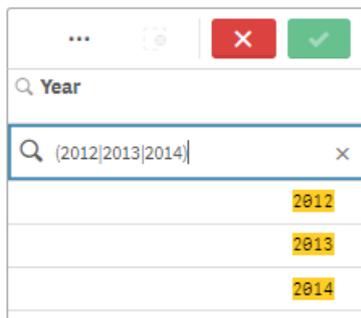
複数のワイルドカードと引用符を使用した複合検索



OR 検索演算子 ("|")

OR 演算子を使用すると、複合検索は含まれる検索のいずれかに一致する値を返します。

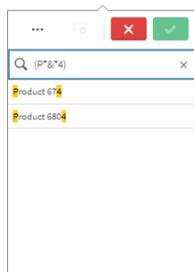
OR 検索演算子を使用した複合検索



AND 検索演算子 ("&")

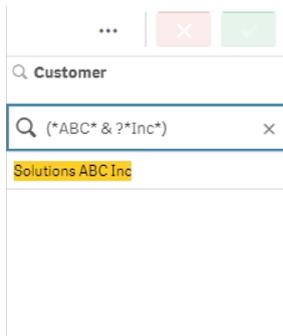
AND 演算子を使用すると、複合検索はステートメントに含まれるすべての検索項目に一致する値を返します。複合検索は完全一致のみを返すため、通常、この演算子は1つ以上のワイルドカードと共にのみ使用されます。

AND 検索演算子を使用した複合検索



この追加例では、複合検索で AND 演算子と複数のワイルドカードを使用しています。

AND 検索演算子を使用した複合検索の追加例

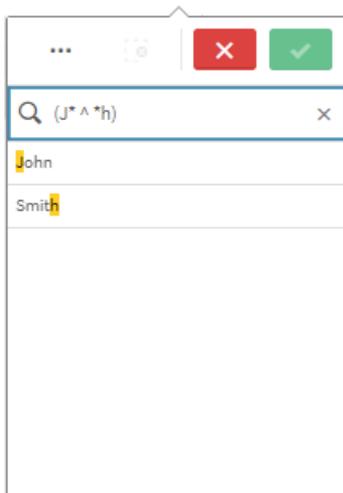


XOR 検索演算子 ("^")

XOR 演算子を使用すると、複合検索は最初または 2 番目の検索のいずれかに一致する (両方には一致しない) 値を返します。

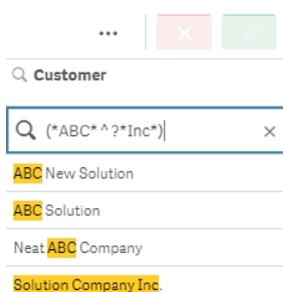
以下の例では、検索は文字「j」で始まるか文字「h」で終わる値を返しますが、これらの条件の両方に一致する値 (「Josh」など) は含まれません。

XOR 検索演算子を使用した複合検索



この例では、XOR 演算子と複数のワイルドカードを使用しています。

XOR 検索演算子を使用した複合検索の追加例



5.5 選択の編集

データの分析中に選択を変更できます。選択バーで選択を変更します。

次の手順を実行します。

1. シートビューに切り替えます。
2. シート上の選択バーで、編集したい選択をクリックします。
ポップアップウィンドウが表示されます。
3. ポップアップウィンドウで、追加する値またはクリアする値を選択します。
特殊文字、演算子、ワイルドカード、「[選択またはビジュアライゼーション内の検索 \(page 40\)](#)」で説明されているメソッドを使って選択条件を検索やフィルターできます。
4. 選択内容を確定します。

これで選択条件が更新されました。

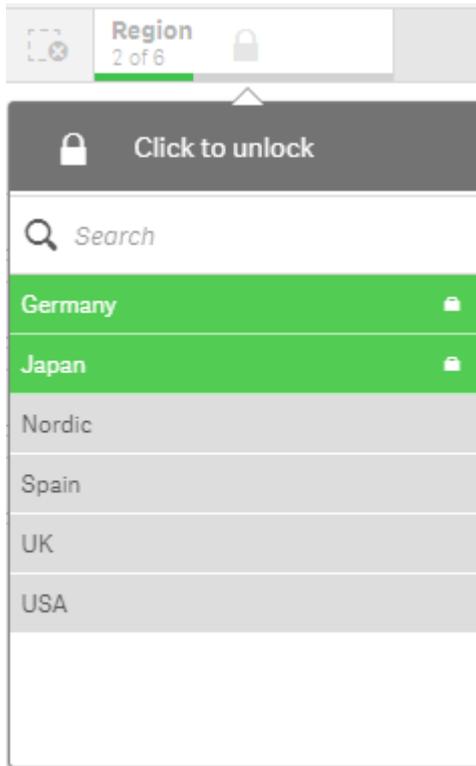
5.6 選択のロックおよびロック解除

ロックオプションを使用して、選択内容を保護することができます。

選択のロック

選択ポップアップでロックアイコンをクリックすると選択がロックされます。ロックすると、選択内容を変更できなくなります。ロックされた内容は、変更またはクリアできません。すでに選択をロックしている場合に除外されている項目値を選択すると、選択アイテムが点滅してロックされていて選択できないことが示されます。

[地域] 選択でロックされている値、「Germany」および「Japan」。



選択履歴を戻ることにより軸をロックする前の状態に戻すことができます。

選択のロック解除

選択ポップアップでロックアイコンをクリックすると選択のロックが解除されます。ロックを解除すると、変更やクリアが可能になります。



Qlik Sense を使用してアプリを保存する場合、現在の選択とロックは保存されません。選択とロックは、アプリを開くときに毎回行う必要があります。

5.7 選択履歴の移動

選択を行うと、選択内容はシートの上の選択バーでアイテムとして保存されます。

選択履歴での移動およびすべての選択をクリアするオプションが含まれている選択バー。



選択バーの左側には 3 つのオプションがあります。選択履歴で戻るオプション、前に進むオプション、そして、すべての選択をクリアにするオプションです。スクリーンショットでは、戻るオプションが表示されていますが、前に進むオプションはグレーアウトされています。これは、選択履歴を戻っていない場合は正常な状態です。

 をクリックすると、選択履歴を 1 段階戻ります。セッションの最初の選択まで戻ることができます。選択がロックされている場合でも、選択を行う前の状態まで戻れます。ロックされた選択は、軸名の前に  が表示されます。このスクリーンショットでは、**Region** という軸がロックされています。

 をクリックすると、選択履歴を 1 つ次に進めます。

 をクリックすると、ロックされている選択以外のすべての選択がクリアされます。

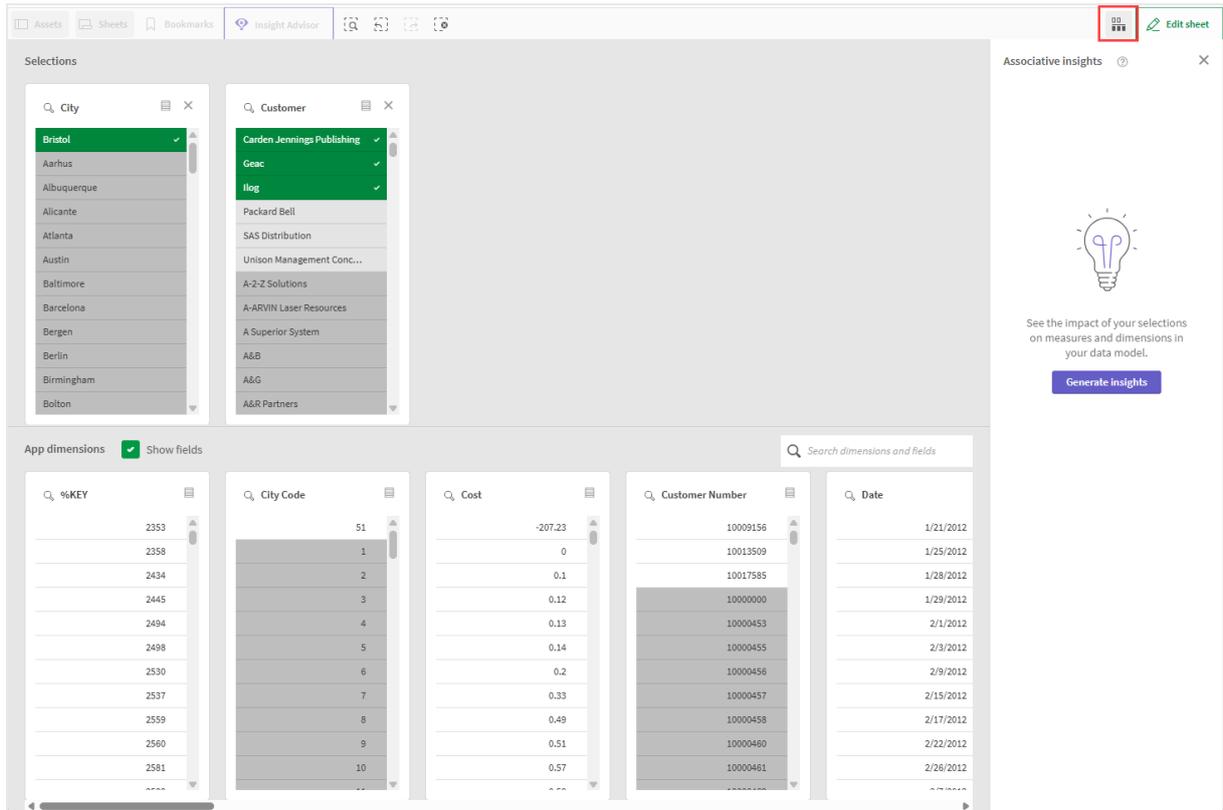
5.8 選択ツールの使用

選択ツールにはアプリの軸と項目すべての概要が表示されます。また、選択されたデータのより詳細なビューが表示されるため、使用されていない軸の関連性を調べることができます。

分析中に、 をクリックして選択ビューを開きます。

選択ツールは **[選択]** と **[アプリ軸]** の 2 つのセクションに分かれています。**[選択]** セクションには、アクティブな選択データを持つ項目が表示されます。**[アプリ軸]** セクションには、すべての軸と項目が表示されます。両セクションともアルファベット順にソートされます。既定では、アプリ軸にはマスターアイテムのみが表示されます。アプリにロードされているすべての項目を表示するには、**[項目を表示する]** を選択します。

[選択] と [アプリ軸] の 2 つのセクションを示す選択ツール。



選択の実行とクリア

いくつかの選択を連続して行うことができます。✓ をクリックするか、リストの外側 (ただし選択ツールのエリア内) をクリックして選択を確定します。これらの軸は [選択] まで上に移動します。ツールバーをクリックして選択ツールを閉じます。

[選択] で、✗ をクリックすると、フィールドの選択をクリアできます。選択をクリアした項目は [アプリ軸] まで下に移動します。

選択ツールを使用しているときでも、選択バーのオプション (1 段階戻る、1 段階進む、選択をすべてクリアする) を使用できます。各軸には、通常のリストオプション (選択メニュー、選択のクリア、選択のキャンセル、選択の確認、検索) があります。

[アプリ軸] セクション内での検索

[アプリ軸] セクションには、軸と項目が多数ある場合に便利な検索ボックスがあります。検索は、項目または軸タイトル別に行うことができます。検索文字列としては 1 語以上の単語または単語の一部を使用できます。検索では、大文字と小文字が区別されませんが、完全一致の文字列だけが表示されます。"numbers" で検索しても "number" は見つかりませんが、"mbe" で検索すると見つかります。

選択ツールでのスクロール

スクロールバーをドラッグすると、セクションを水平方向にスクロールできます。1 つのセクションをスクロールしても、他のセクションは影響を受けません。

軸リストには、垂直方向へのスクロール用のスクロールバーもあります。

洞察の生成

Associative Insights により、データ内に存在する関係を明らかにします。Qlik コグニティブエンジンは、項目のサブセット内に除外値がないかどうかデータモデルを検索します。それらの値はハイライト表示されるため、探索することができます。

選択を実行したら、**[洞察を生成]** をクリックします。カードが右側のパネルに表示されます。カードには、データ内の軸およびメジャーに対する選択の影響が示されます。

計算軸

計算軸をマスター軸として追加すると、選択ツールに表示できます。[「マスター軸を使用した軸の再利用」](#)を参照してください。

計算マスター軸で選択が行われると、選択内容は緑色で表示された状態で**[アプリ軸]** セクションに表示されません。選択項目に正確に対応する軸は、**[アプリ軸]** セクションには表示されません。

5.9 Associative Insights によるデータの発見

Associative Insights により、データ内に存在する関係を明らかにします。Qlik コグニティブエンジンは、項目のサブセット内に除外値がないかどうかデータモデルを検索します。それらの値はハイライト表示されるため、探索することができます。

選択内容と除外値の寄与度をメジャーに対して比較することができます。すべてのデータセット、特に複雑なデータセットでは、これにより盲点を発見し、見過ごした可能性のある関係を明らかにすることができます。

Associative Insights を使用したデータ探索に関するビジュアルデモと実際的な例については、次を参照してください。

- [Associative Insights によるデータの発見](#)
- [Qlik Associative Insights - シンプルでありながら実際的な例](#)

制限事項

アプリに対して適切なアクセス権を持っているアプリ消費者は、Associative Insights を使用できます。アプリ消費者は、Qlik Sense Enterprise または Qlik Core サーバーに接続する必要があります。以下の操作は実行できません。

- 並列ステート機能を使用する。
- アプリ内の項目の**[1個の値を常に選択]**を設定する。
- 選択内容をロックする。

Associative Insights の選択ビュー

洞察の生成時、Qlik Sense は選択を確認し、データモデル内の除外値を分析します。次に、さらに探索できる関心対象のデータをハイライト表示します。そのデータはカードに表示され、クリックするとさらに詳細なビューが表示されます。

連想インサイトの選択ビュー。

The screenshot displays the 'Associative insights' panel in Qlik Sense. The 'City' dimension is selected, and the 'Sales' measure is calculated on 100% of data. The insights show that Aarhus contributes 0.9% to total sales. Excluded values for Sales Rep Name, Desc, and Customer are also shown.

Measure	Contribution to total
Sales	0.9%
Sales Rep Name	53 of 63 (84.1% excluded)
Desc	97 of 98 (99% excluded)
Customer	676 of 684 (98.8% excluded)

選択

現在適用されている選択内容。最上部のリストボックスには、現在の選択条件に関連付けられているデータが表示されます。その他のリストボックスには、現在の選択条件から除外されているデータが表示されます。

連想インサイトの選択カード。

The screenshot displays the 'Selections' panel in Qlik Sense. The 'City' dimension is selected, and the 'Sales' measure is calculated on 100% of data. The insights show that Aarhus contributes 0.9% to total sales. Excluded values for Sales Rep Name, Desc, and Customer are also shown.

アプリ軸

選択可能なアイテム。既定では、マスターアイテムのみが表示されます。**[項目を表示する]**を選択して、すべての項目を表示します。

連想インサイトのアプリ軸。

XKEY	City Code	Cost	Customer	Customer Number	Date	Date.autoCalendar.C
86	70	-180.09	Bitstream	10006805	2/8/2012	2/8/
96	1	-41.29	Edify	10010897	2/26/2012	2/26/
120	2	-38.07	Home Automation (HA)	10016548	3/7/2012	3/7/
913	3	-5.79	Molson Breweries	10020413	5/9/2012	5/9/
1796	4	-6.45	Razorfish	10022725	5/18/2012	5/18/
1964	5	-6.26	Saturnus Multi produkten	10023783	5/27/2012	5/27/
1966	6	-8.84	Unisys	10025558	6/7/2012	6/7/
2214	7	0	Zitel	10027575	6/29/2012	6/29/
2856	8	0.01	A Superior System	10000000	7/5/2012	7/5/

メジャー

洞察を得るために Qlik Sense が選択したメジャー。メジャーはドロップダウンメニューで変更できます。

連想インサイトのアプリ軸。

XKEY	City Code	Cost	Customer	Customer Number	Date	Date.autoCalendar.C
86	70	-180.09	Bitstream	10006805	2/8/2012	2/8/
96	1	-41.29	Edify	10010897	2/26/2012	2/26/
120	2	-38.07	Home Automation (HA)	10016548	3/7/2012	3/7/
913	3	-5.79	Molson Breweries	10020413	5/9/2012	5/9/
1796	4	-6.45	Razorfish	10022725	5/18/2012	5/18/
1964	5	-6.26	Saturnus Multi produkten	10023783	5/27/2012	5/27/
1966	6	-8.84	Unisys	10025558	6/7/2012	6/7/
2214	7	0	Zitel	10027575	6/29/2012	6/29/
2856	8	0.01	A Superior System	10000000	7/5/2012	7/5/

含められた値

このカードは、含められた値を表します。

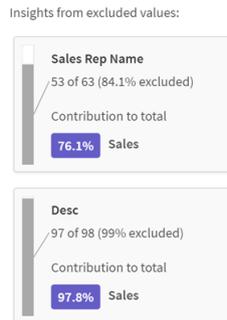
連想インサイトに含まれる値。

City (Your current selection)
Contribution to total
0.9% Sales

除外値の洞察

洞察カードには、除外値のメジャーへの影響が表示されます。この場合は、カナダ(CAN)にいない一人の従業員 (EmployeeName) が年間の売上 (YearlySales) の 37.8% に寄与したことを示しています。紫は洞察を示します。カードをクリックすると洞察詳細ビューが表示されます。

連想インサイトから除外された値からのインサイト。



[軸を追加] ドロップダウン

このドロップダウンを使用して、**[除外値からの洞察]** セクションにカードを追加できます。

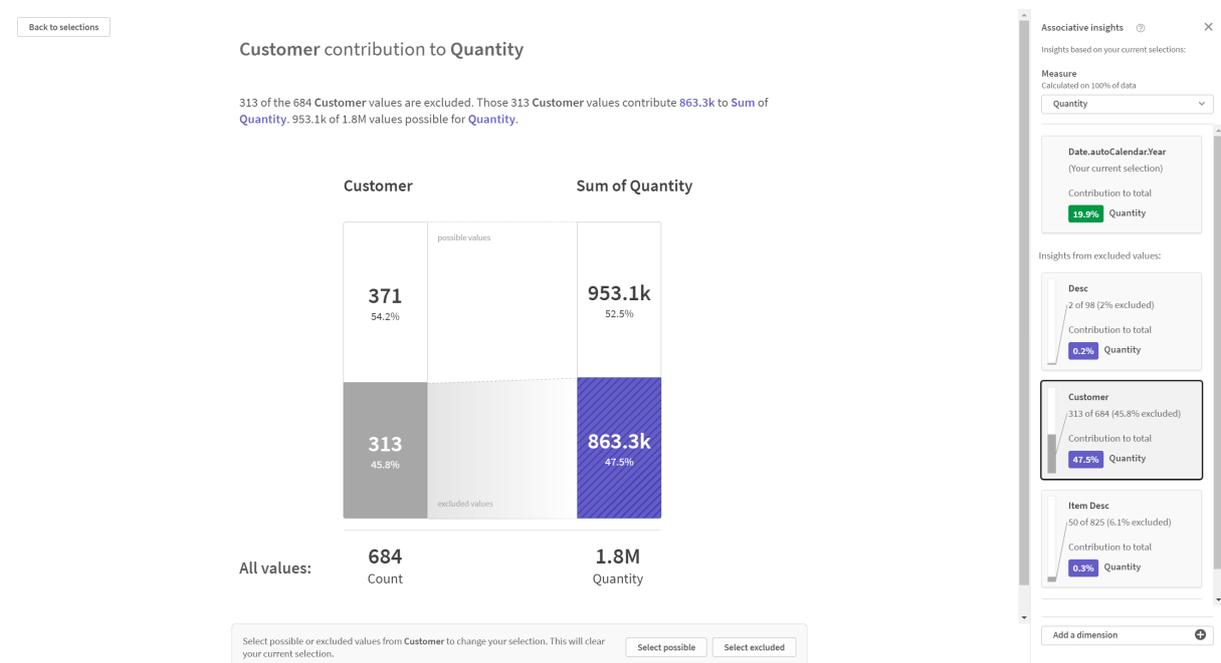
[軸を追加] ドロップダウン。



洞察カードの詳細ビュー

シンプルな `sum()` メジャーがある場合、詳細ビューに詳細チャートが表示されます。

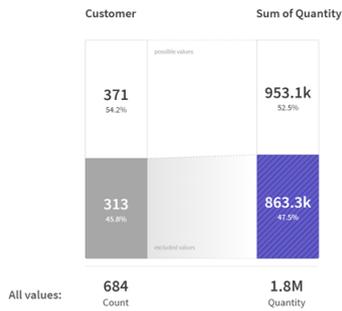
連想インサイトのカード詳細ビュー。



詳細ビュー

現在選択されているカードの詳細ビュー。チャートをクリックしてテーブル内のデータを確認します。紫は洞察を示します。

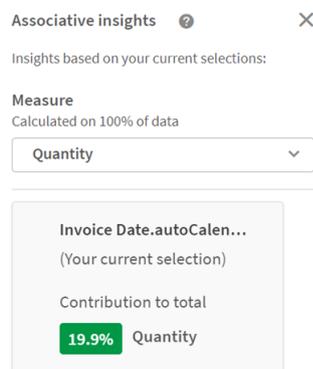
現在選択されているカードの詳細ビュー。



メジャーおよび含められた値

ドロップダウンを使用して、現在のメジャーを変更できます。下のカードは、含められた値を表します。

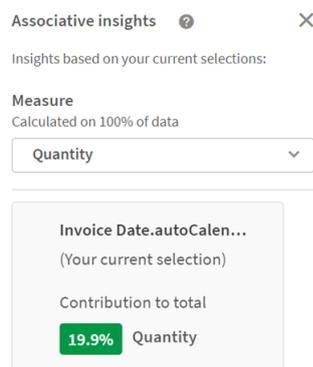
メジャー選択および含められた値。



除外値の洞察

これらのカードは、除外値を表します。カードをクリックすると、詳細ビューでチャートを変更できます。

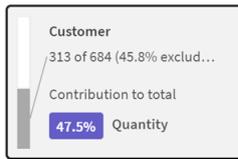
[軸を追加] ドロップダウン。



現在選択されている軸カード

現在選択している軸の周囲に暗色の枠が表示されます。

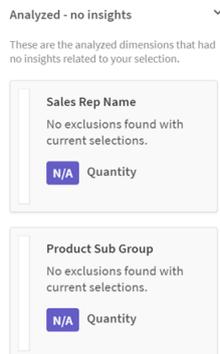
現在選択しているカード。



分析結果 - 洞察なし

これらの値は分析されていますが、関連する洞察はありません。

利用可能な洞察のないカードのリスト。



[軸を追加] ドロップダウン

このドロップダウンを使用して、[除外値からの洞察] セクションにカードを追加できます。

軸を追加するためのドロップダウンメニュー。

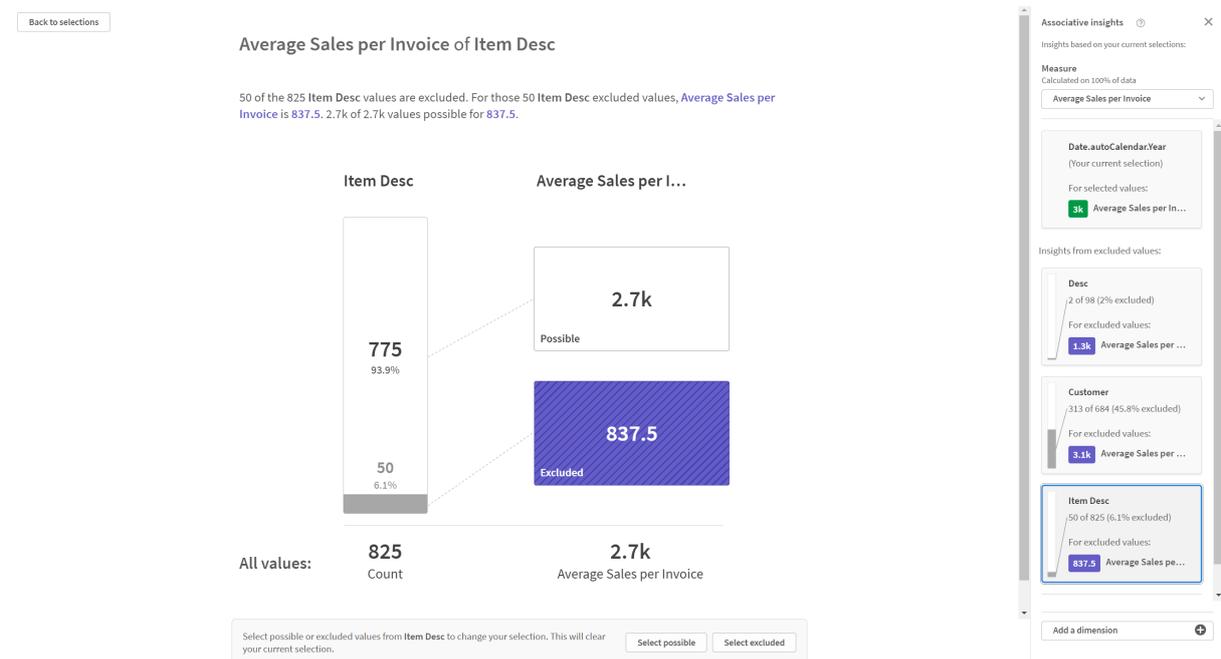


洞察カードの KPI ビュー

詳細ビューには、次の2つの条件で KPI チャートが表示されます。

- メジャー集計は `sum()` 以外です。
- メジャー集計は `sum()` ですが、データモデルは標準の積み上げチャートに適していません。

Associative Insights のカード詳細 KPI レイアウト。



洞察の生成

以下を実行します。

1. アプリのシートで、**[選択]** をクリックします。**[選択]** ウィンドウが開きます。ウィンドウには、**[Associative insights]** パネルがあります。
2. **[アプリ軸]** で値を1つ選択します。
既定では、マスターアイテムのみが表示されます。**[項目を表示する]** を選択して、すべての項目を表示します。次に、表示されている項目の中から値を1つ選択できます。
3. **[洞察を生成]** をクリックします。
4. カードが右側のパネルに表示されます。カードには、データ内の軸およびメジャーに対する選択の影響が示されます。
5. 評価するメジャーを変更できます。**[メジャー]** ドロップダウンメニューから新しいメジャーを選択します。
6. カードをクリックして **Associative Insight** についての詳細を確認します。

選択項目は、**[Associative Insights]** ウィンドウでいつでも選択または変更できます。選択を行って**[更新]** をクリックします。新しい選択に基づいてカードが更新されます。

Associative Insights の例: 残されたデータなし

この例では、シンプルなデータセットを使用して洞察を発見します。

以下を実行します。

1. 以下は、**[選択]** ウィンドウが開いた状態のアプリのビューです。**[国]** 項目では「CAN」を選択しました。**US** は、代替選択値なので薄い灰色になっています。**[EmployeeID]**、**[EmployeeName]**、**[YearlySales]** 項目の値は、可能な値なので白色になっています。言い換えると、これらの項目は選択した **CAN** に関連

付けられています。

[洞察を生成] ボタンが付いた *Associative Insights*。

The screenshot shows the Qlik Sense interface with the following components:

- Selections:** A dropdown menu for 'Country' with 'CAN' selected.
- App dimensions:** Three tables are displayed:

EmployeeID	EmployeeName	YearlySales
101	Alyson	15000
102	Antoine	40000
103	August	50000
105	Chloe	100000
106	Christine	125000
107	Darin	150000
108	Enoch	185000
109	Erinn	190000
110	Gayle	250000
111	Holli	280000
112	Ja	325000
113	Lisandra	350000
114	Mariam	400000
- Associative Insights Panel:** Located on the right, it features a lightbulb icon and a 'Generate insights' button. Text below the icon reads: 'See the impact of your selections on measures and dimensions in your data model.'

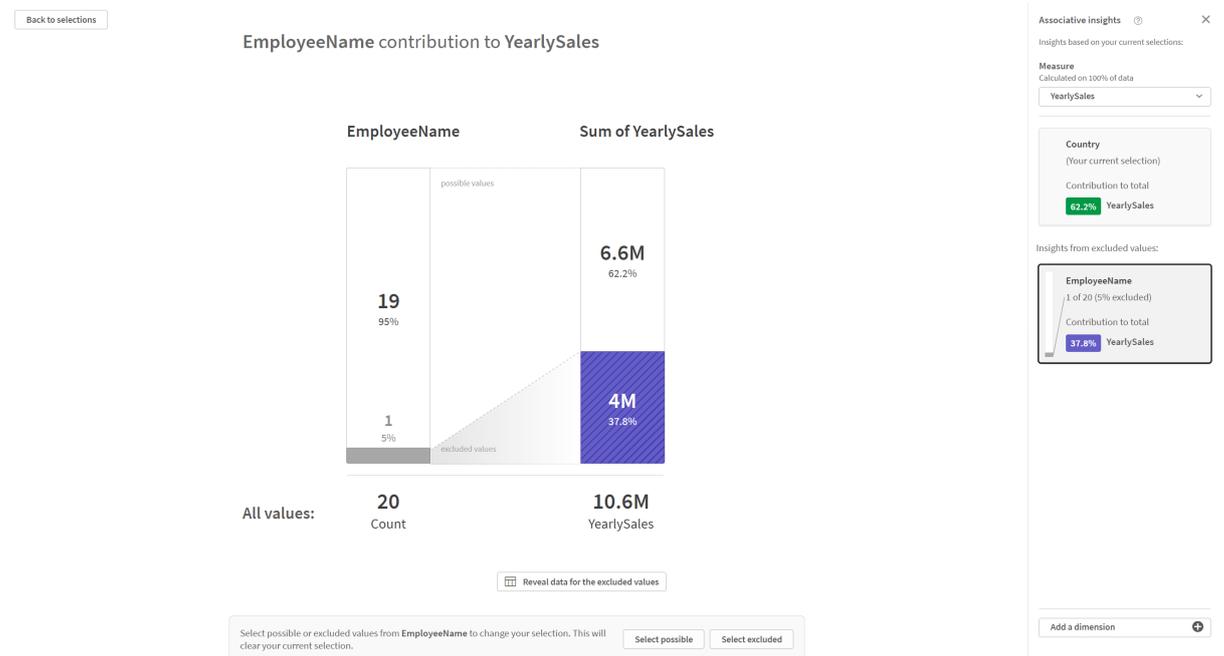
- [洞察を生成] をクリックすると、Qlik Sense は関心のあるデータを選択して *Associative Insights* のカードに表示します。CAN は年間売上の 62.2% に寄与していることが分かります。また、一番下のカードを見ると、従業員の一人 (または全 *EmployeeName* の 5%) がこの選択から除外されていることも分かります。この従業員は年間売上の 37.8% に寄与しています。紫は洞察を示します。

1 つの選択を持つ *Associative Insights*

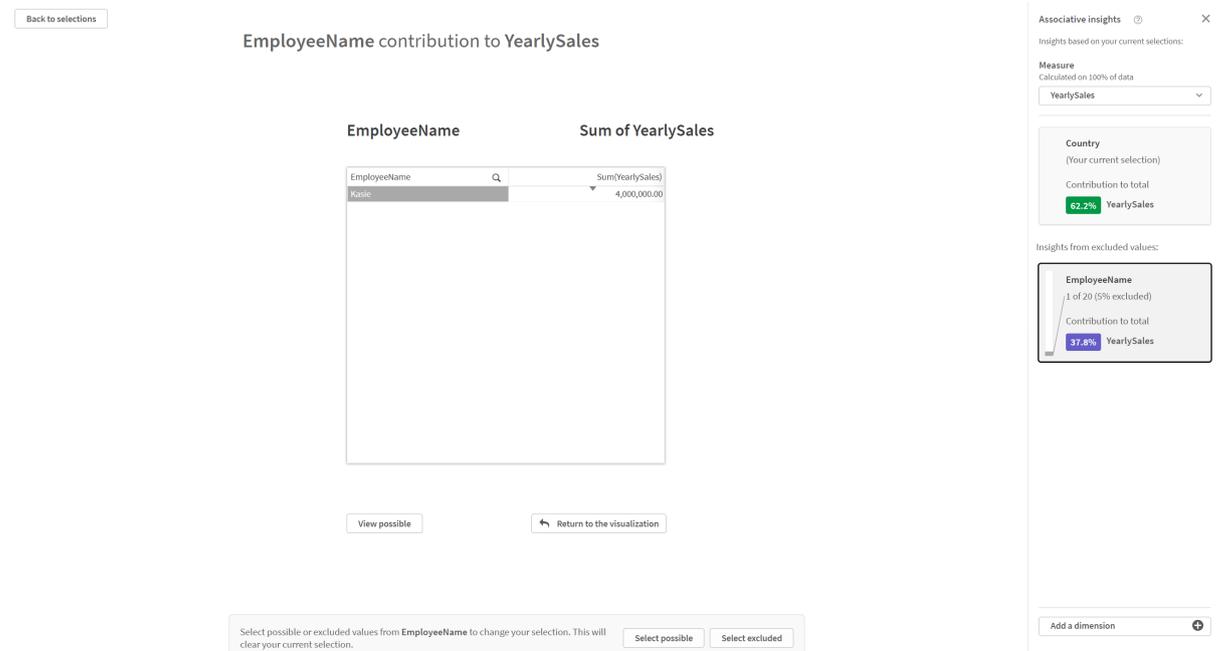
The screenshot shows the Qlik Sense interface with the following components:

- Selections:** A dropdown menu for 'Country' with 'CAN' selected.
- App dimensions:** Three tables are displayed (same as in the previous screenshot).
- Associative Insights Panel:** Located on the right, it displays:
 - Measure:** 'YearlySales' (Calculated on 100% of data). Contribution to total: 62.2%.
 - Insights from excluded values:** 'EmployeeName' (1 of 20 (5% excluded)). Contribution to total: 37.8%.

3. カードをクリックすると、Qlik Sense にはそのデータの詳細ビューが表示されます。このビューには、除外された従業員の年間売上への寄与度が示されます。この従業員はだれか? この従業員は **CAN** の選択から除外されていることは分かっています。[除外された値のデータを表示] をクリックします。
詳細ビューを含む *Associative Insights*



4. [EmployeeName] 項目から除外された値である、**Kasie** に関する情報を示したテーブルが表示されます。[除外値を選択] をクリックして **Kasie** を選択値として適用します。
除外された値の詳細ビューを含む *Associative Insights*



5. [選択] ウィンドウが再び表示されます。**Kasie**が選択されています。前の選択 **CAN**での値はこの時点で除外されているため、濃い灰色になっています。

[選択を探索する]をクリックして、[洞察を生成]をクリックします。

除外されていた値が含まれた **Associative Insights**

The screenshot shows the Qlik Sense interface. On the left, the 'Selections' pane is open, showing a list of employee names. 'Kasie' is selected and highlighted in green. Below it, other names like Alyson, Antoine, August, Chloe, Christine, Darin, Enoch, Erin, Gayle, Hollie, Ja, and Lisandra are listed in grey. In the center, the 'App dimensions' pane is open, showing three dimensions: 'Country', 'EmployeeID', and 'YearlySales'. The 'Country' dimension has 'US' and 'CAN' listed. The 'EmployeeID' dimension has values from 104 to 113. The 'YearlySales' dimension has values from 4000000 to 350000. A search bar is visible at the top right of the dimensions pane.

6. **EmployeeName** カードをクリックすると、更新された洞察カードの詳細ビューが表示されます。

選択した値が **Kasie** である **Associative Insights**

The screenshot shows the Qlik Sense interface. On the left, there is a 'Back to selections' button. In the center, the 'Selections contribution to YearlySales' section is displayed. It includes a text box stating: 'For the current selection, the YearlySales contribution is 37.8%. 6.6M of 10.6M values are excluded.' Below this is a bar chart titled 'Your selection' and 'Sum of YearlySales'. The chart shows two bars: a green bar for 'EmployeeName Kasie' with a value of 4M (37.8%) and a grey bar for 'Country' with a value of 6.6M (62.2%). The total value is 10.6M YearlySales. On the right, the 'Associative insights' pane is open, showing a detailed view of the 'EmployeeName' card. The card is titled 'EmployeeName (Your current selection)' and shows a contribution to total of 37.8% YearlySales. Below it, the 'Country' card is shown, titled 'Country 1 of 2 (50% excluded)' and shows a contribution to total of 62.2% YearlySales. At the bottom of the pane, there is an 'Add a dimension' button.

アプリで Associative Insights を無効にする

変数を追加してアプリを更新することで、アプリ内での Associative insights を無効にすることができます。

次の手順を実行します。

1. シート編集モードのアセットパネルで、 をクリックします。
2. [新規作成] をクリックします。
3. [名前] で、「DISABLE_SELECTION_INSIGHTS」と入力します。
4. [定義] で、任意の値を入力します。
5. [Close] (閉じる) をクリックします。
6. アプリを更新します。

Associative Insights のトラブルシューティング

Associative Insights が表示されません

考えられる原因

スクリプト変数によってこの機能が無効化されています。

提案されたアクション

管理者に連絡してください。

洞察を利用できません

考えられる原因

Qlik Sense がオフラインになっているか、Qlik Sense サーバーに接続されていません。

提案されたアクション

オンラインになっていることを確認してください。Qlik Sense サーバーにログインして再試行してください。問題が解決しない場合は、エンジンに問題がある可能性があります。

[My dimensions] (個人用の軸) に項目がありません

考えられる原因

[項目を表示する] が選択されていないため、マスター軸のみを表示できます。

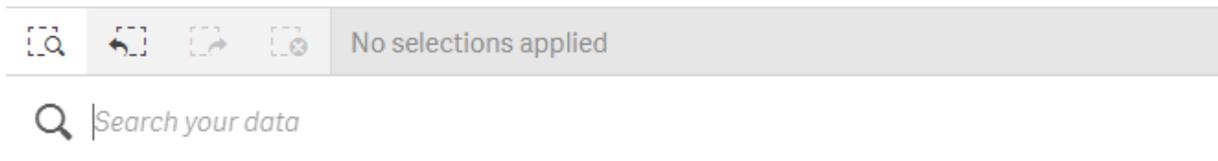
提案されたアクション

[選択] 画面で、[項目を表示する] を選択します。

6 スマート検索の使用

スマート検索は **Qlik Sense** のグローバル検索 ツールで、これによりアプリ内の任意のシートからアプリ内のデータセット全体を検索できます。スマート検索は、**[Q]** をクリックすることにより、シートの選択バーから利用できます。

アプリ内で任意のシートの全データセットを検索できる、スマート検索項目。



スマート検索ではテキスト検索のみがサポートされています。引用符以外の検索演算子はサポートされていません。

[選択の適用] で結果をクリックすると、結果が非表示となって選択が適用されます。

スマート検索は、シート上のデータの分析中に使用できます。データ結果を使用して、データ内の関連性を見つけたり、選択したりすることができます。

シート表示の **[Insight Advisor]** をクリックするとアクセスできる **Insight Advisor** を使用し、シート内のビジュアライゼーションのデータを検索できます。**Insight Advisor** により、データ検索に基づいて新しいビジュアライゼーションを生成することもできます。

テーブルやフィルター パネルなどの選択およびビジュアライゼーション内で検索することもできます。

6.1 検索時の動作

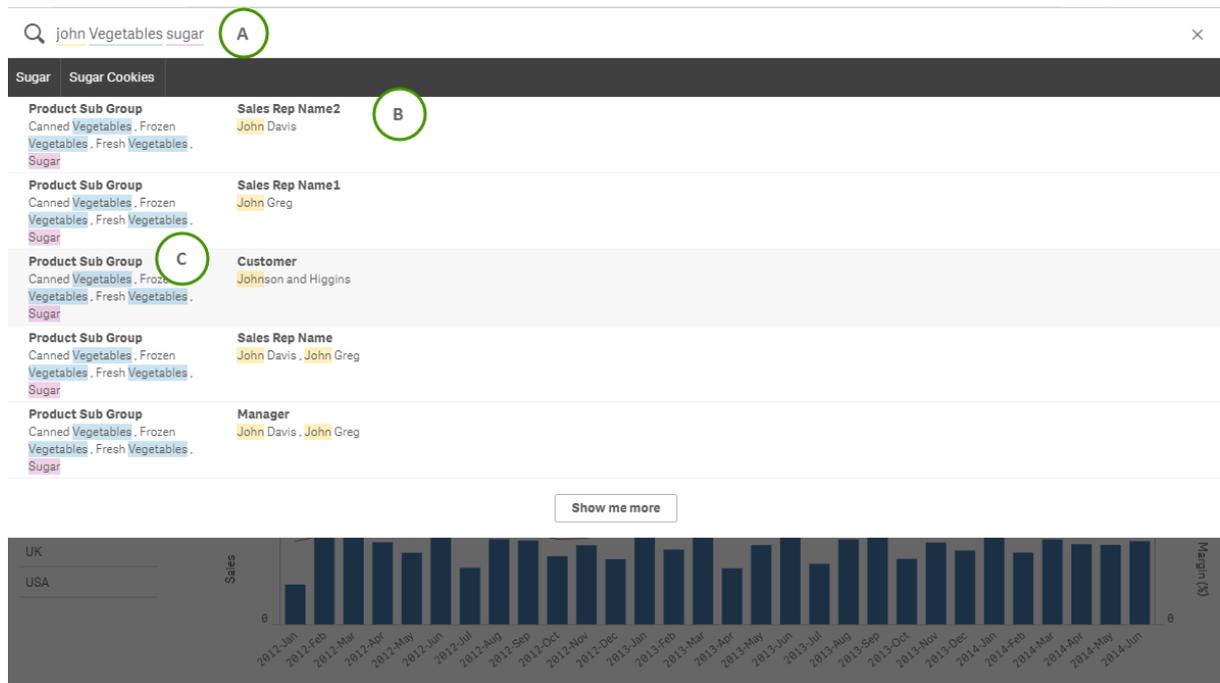
検索クエリを入力すると、**Qlik Sense** でデータアイテムが検索されます。スマート検索によって項目値がフィルタリングされ、一致するアイテムが表示されます。スマート検索の方法は、次のとおりです。

- 項目値
- 軸の値 (マスター アイテムとして作成される軸の値も含む)



メジャー (メジャー値) は、スマート検索に含まれません。

「John Vegetables sugar」を検索した結果です。ここでは、用語ごとに1つの検索クエリが生成されています。



A: 検索フィールド

検索用語をスペースで区切ります。単語を1つの検索用語に連結するには、“*mountain bike*”のように引用符を使用します。検索フィールドの下に、推奨される検索文字列が表示されます。

B: 選択の適用

アプリデータからの検索結果が、1行に1つずつ表示されます。

結果をさらに表示するには、[さらに表示]をクリックします。

C: 検索結果用語の色分け

見つかった検索用語ごとに、色コードが割り当てられます。部分一致と完全一致が表示されます。

検索フィールドの右側にあるキャンセルアイコン **X** をクリックすると、検索フィールドをクリアできます。検索アイコン **🔍** をクリックして、スマート検索を終了します。

検索用語は常に、データベース内の語句の先頭から比較されます。「read」を検索すると「bread」とは一致しませんが、「reader」と「Reading」には一致します。検索用語はそれぞれ色分けされるため、結果がわかりやすくなります。検索用語が6個を超える場合は、同じ色が再度使用されます。

6.2 検索結果を使って選択を変更する

データの検索結果を調整する

データの検索では、結果には Qlik Sense データベース全体で検出された検索結果の組み合わせが表示されます。結果は項目の関連付けに基づきます。一致した検索用語の数で降順にソートされます。一致が複数ある場合、結果は関連性でランク付けされます。一致をクリックすると、それが検索フィールドに挿入されます。

値を実際を選択するのに使用する結果を選択すると、現在の選択および選択したデータを含むビジュアルセッションが更新されます。

次のスクリーンショットは、データベースで使用できるカテゴリ *john*、*Vegetables*、および *sugar* を示しています。

The screenshot shows a search interface with the query 'john vegetables sugar' entered. The results are displayed in a table with columns for 'Product Sub Group' and various attributes. The 'Sugar' category is highlighted in pink, 'Vegetables' in blue, and 'john' in yellow. A 'Show me more' button is visible at the bottom of the results section.

Product Sub Group	Sales Rep Name2
Canned Vegetables .	John Davis
Frozen Vegetables .	
Fresh Vegetables .	
Sugar	

Product Sub Group	Sales Rep Name1
Canned Vegetables .	John Greg
Frozen Vegetables .	
Fresh Vegetables .	
Sugar	

Product Sub Group	Customer
Canned Vegetables .	Johnson and Higgins
Frozen Vegetables .	
Fresh Vegetables .	
Sugar	

Product Sub Group	Sales Rep Name
Canned Vegetables .	John Davis , John Greg
Frozen Vegetables .	
Fresh Vegetables .	
Sugar	

Product Sub Group	Manager
Canned Vegetables .	John Davis , John Greg
Frozen Vegetables .	
Fresh Vegetables .	
Sugar	

Show me more



検索結果で軸の値を選択すると、項目名 (軸の名前ではない) が選択バーに表示されます。

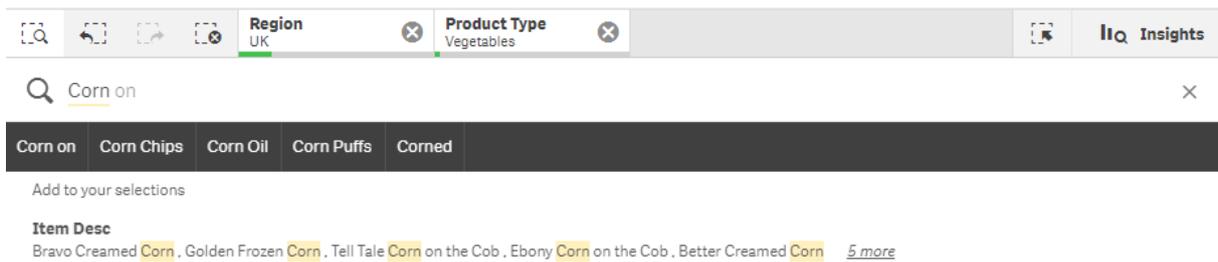
検索フィールドの右側にあるキャンセルアイコン をクリックすると、検索フィールドをクリアできます。検索アイコン をクリックして、スマート検索を終了します。

検索用語は常に、データベース内の語句の先頭から比較されます。「read」を検索すると「bread」とは一致しませんが、「reader」と「Reading」には一致します。検索結果は、一致を示すために色分けされます。検索用語が6個を超える場合は、同じ色が再度使用されます。

スマート検索を使って現在の選択を変更する

スマート検索を使用してアプリ内のデータを検索しており、結果から選択を行う場合は、その選択内を検索できます。その後、検索結果をクリックして、現在の選択を変更できます。スマート検索は選択内で自動的に検索を行うので、検索文字列を追加し新規検索を実行するだけです。これを繰り返して、検索結果をフィルタリングすることができます。

[地域] および [製品 タイプ] 選択内で検索するためのスマート検索の使用。

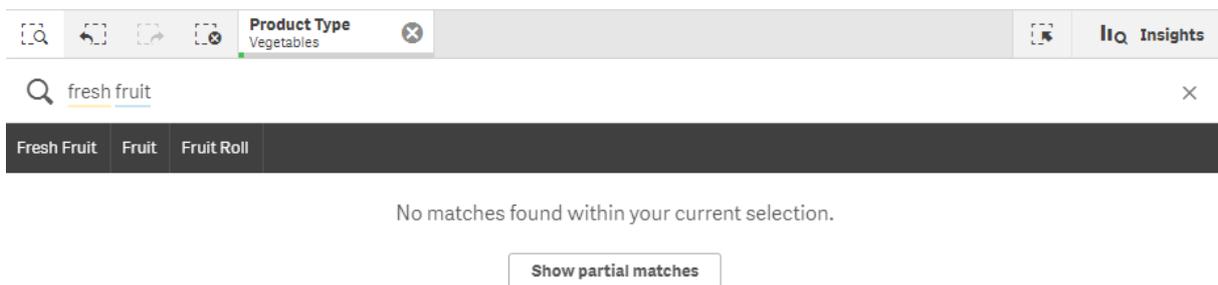


現在の選択範囲内で検索する場合は、スマート検索により、現在の選択に関連付けられている結果が検出されます。検索対象の用語が現在の選択に関連付けられていない場合は、現在の選択をクリアするオプションが表示されます。選択をクリアすると、検索用語を再入力しなくても、その用語の検索結果が表示されます。

選択の範囲内で検索し、その選択のために検索用語が除外されている(濃いグレー)場合、結果は表示されません。

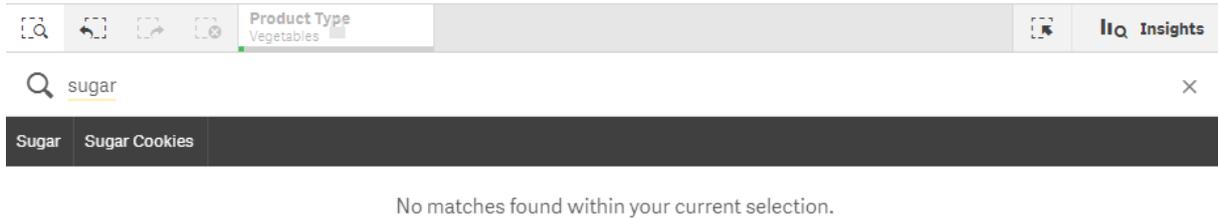
複数の用語を使用して選択内の検索を行い、すべての検索用語の場合にクエリによって結果が得られなかった場合は、[部分一致の表示] をクリックして部分一致を表示することができます。

「fresh fruit」という複数の用語を検索すると、すべての検索用語の結果が生成されたわけではないので、[部分一致の表示] オプションを使用することができます。



選択内で検索を行い、クエリで結果を得られなかった場合には、「現在の選択条件で一致するものはありません。」というメッセージが表示されます。選択がロックされている場合は、選択をロック解除して新しい検索を行うことを検討できます。

[製品タイプ] 選択での「sugar」の検索結果なし。



6.3 スマート検索で使用されるキーボードショートカット



このキーボードのショートカットの説明では、**Windows** を使用していることを想定しています。
macOS の場合は、**Ctrl** の代わりに **Cmd** を使用してください。

スマート検索で使用されるキーボードショートカット

キーボードナビゲーション	説明
CTRL+F	スマート検索を開きます。次に、検索する値または文字を入力します。
Tab または Enter キー	何も強調表示されていない場合は、最初に提案されている検索文字列を検索フィールドに入力します。
上/下矢印キー	検索フィールド、提案された検索文字列リスト、検索結果の間を移動します。 検索結果内の行から行に移動します。
右/左矢印キー	提案された検索文字列リストのエントリ間を移動します。
Tab	提案された検索文字列リストの強調表示されているエントリを検索フィールドに追加します。
Enter	強調表示されている検索結果を選択します。 強調表示されている提案された検索文字列リストから選択します。
Esc	検索フィールドをクリアします。 スマート検索を閉じます (検索フィールドが空白の場合)。
CTRL+F	スマート検索を閉じます。

7 トラブルシューティング - 発見

このセクションでは、Qlik Sense で発見と分析を行うときに発生する可能性のある問題について説明します。

7.1 検索しても結果が生成されない

考えられる原因

選択がロックされています。

提案されたアクション

選択のロック解除を行って、新しい検索を行います。

次の手順を実行します。

1.  の付いた選択をクリックします。
2.  をクリックしてロック解除します。
3. 新しい検索を実行します。

7.2 Insight Advisor を使用して検索しても結果が生成されない

考えられる原因

マスターアイテムではないフィールドを検索しています。

提案されたアクション

代わりにマスターアイテムを検索してください。さらに、スマート検索を使用すると、マスターアイテムではないフィールドを検索することができます。

7.3 未完了のビジュアライゼーション

ビジュアライゼーションが表示されず、代わりに「未完了のビジュアライゼーション」というエラーメッセージが表示される。

考えられる原因

アクセス権のないデータ項目がビジュアライゼーションに含まれています。

提案されたアクション

除外されたデータ項目へのアクセス権を取得してビジュアライゼーションを使用できるかどうか、Qlik Sense 管理者に問い合わせてください。